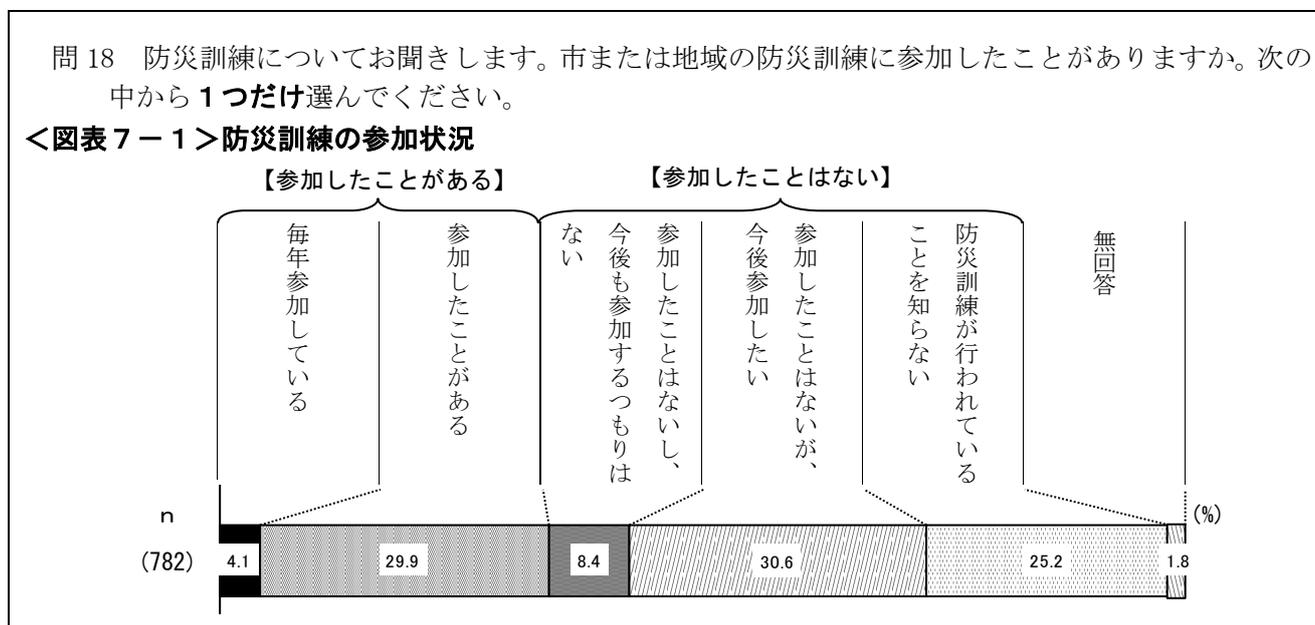


## 7. 防災・防犯対策

### (1) 防災訓練の参加状況

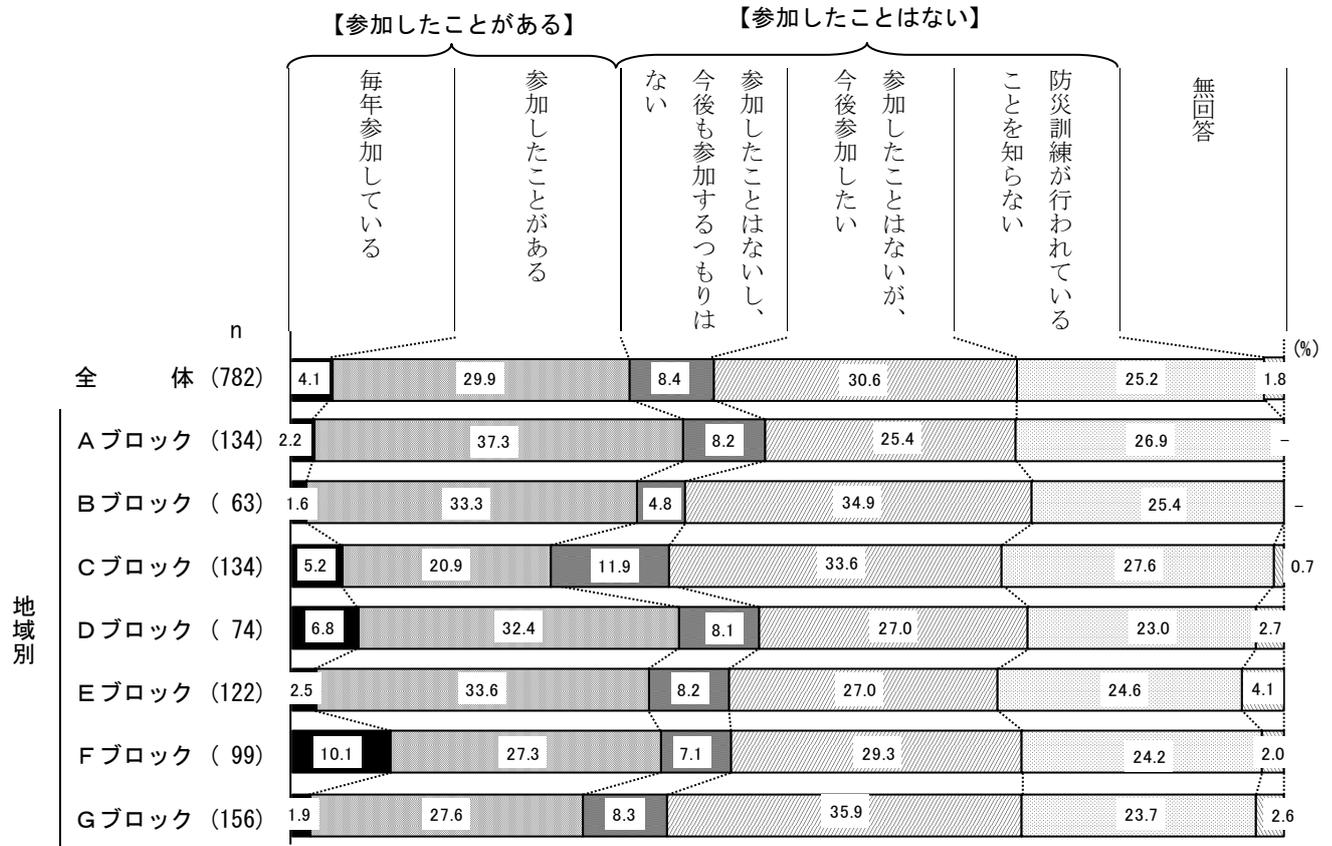
◇「毎年参加している」と「参加したことがある」を合わせた【参加したことがある】が3割台半ば近く



防災訓練の参加状況について尋ねたところ、「毎年参加している」(4.1%)と「参加したことがある」(29.9%)を合わせた【参加したことがある】(34.0%)が3割台半ば近く、「参加したことはないし、今後も参加するつもりはない」(8.4%)「参加したことはないが、今後参加したい」(30.6%)、「防災訓練が行われていることを知らない」(25.2%)を合わせた【参加したことはない】(64.2%)が6割台半ば近くとなっている。(図表 7-1)

地域別でみると、【参加したことがある】はAブロック（39.5%）、Dブロック（39.2%）で4割弱と高くなっている。【参加したことがない】はCブロック（73.1%）で最も高く、次いでGブロック（67.9%）となっている。（図表7-2）

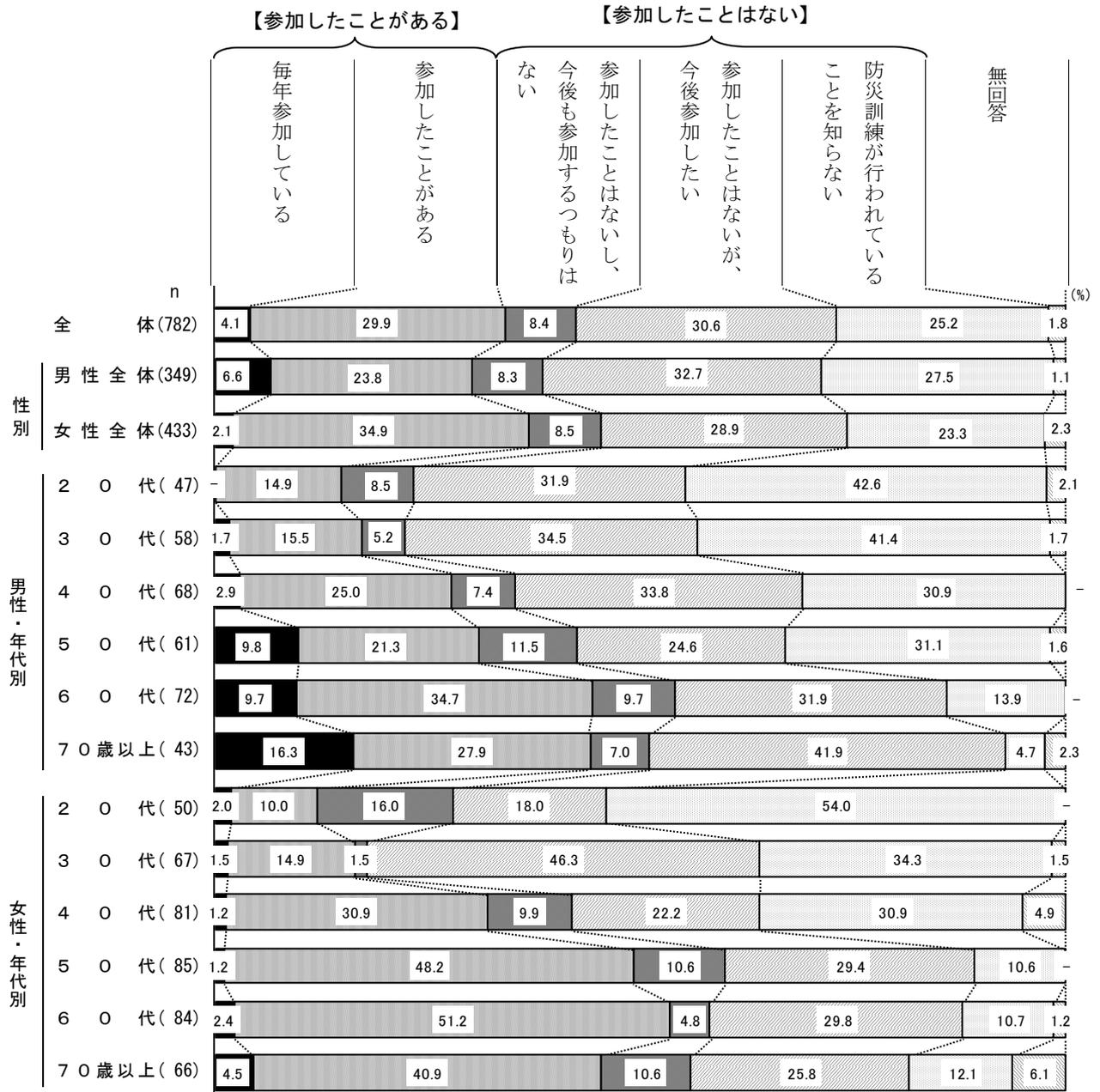
<図表7-2>防災訓練の参加状況／地域別



性別でみると、【参加したことがある】は女性全体（37.0%）が男性全体（30.4%）より6.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【参加したことがある】は女性の60代（53.6%）で最も高く、男女ともに年代が高い層になるにつれて高くなる傾向がみられる。「防災訓練が行われていることを知らない」は女性の20代（54.0%）で最も高く、男性の50代以下、女性の40代以下の年代で3割以上となっている。（図表7-3）

＜図表7-3＞防災訓練の参加状況／性別、性・年代別

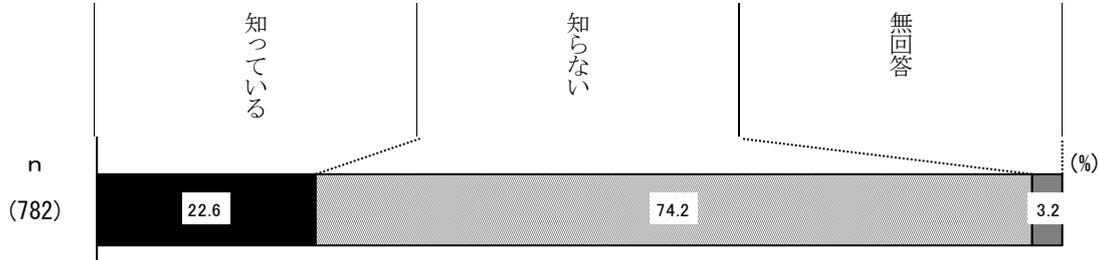


(2) 自主防災組織の認知状況

◇「知っている」が2割強、「知らない」が7割台半ば近く

問 19 自主防災組織についてお聞きします。福生市では、全市民を自主防災組織の一員としていますが、自主防災組織を知っていますか。

<図表 7-4> 自主防災組織の認知状況

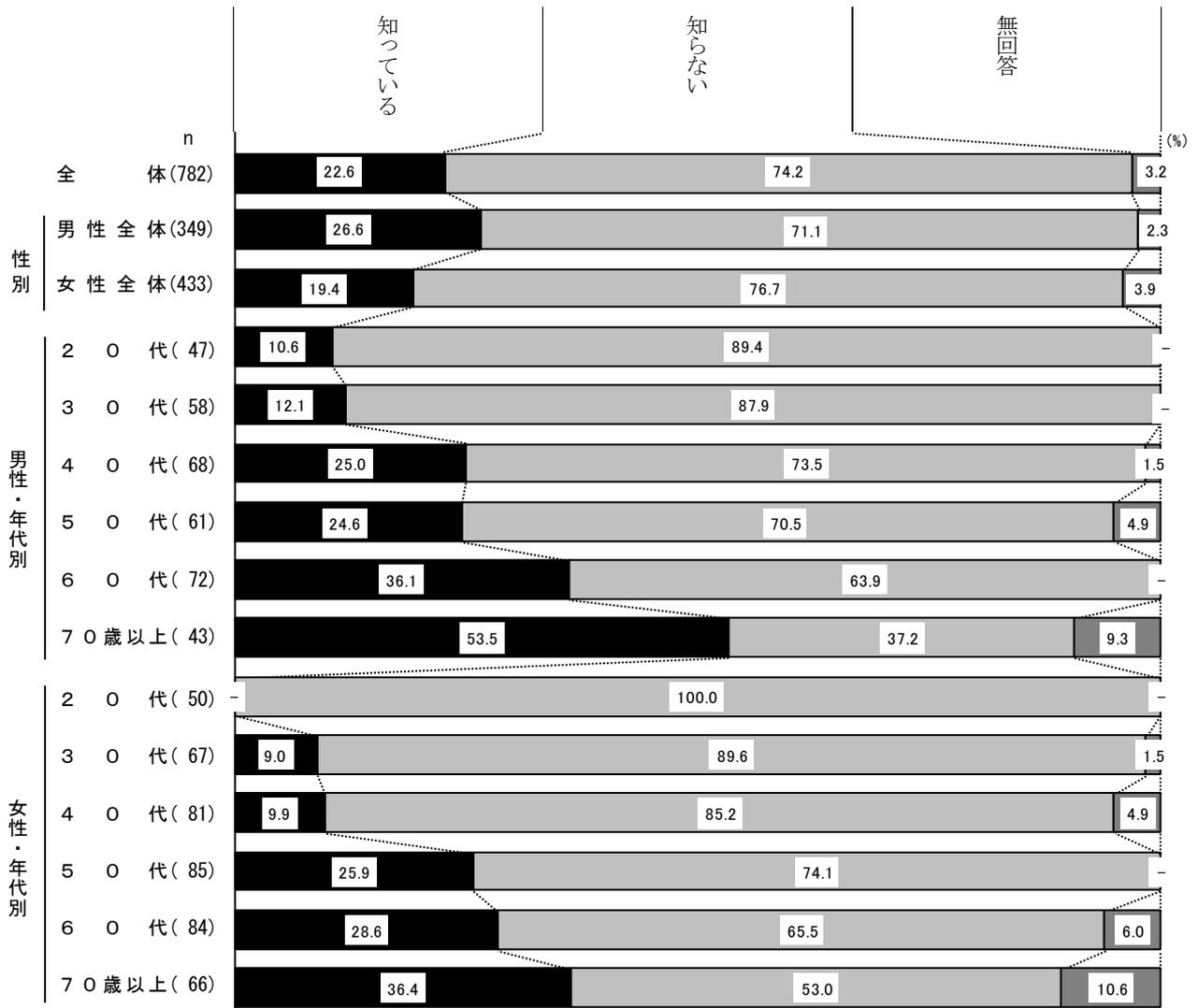


自主防災組織の認知状況について尋ねたところ、「知っている」(22.6%)が2割強に留まり、一方、「知らない」(74.2%)が7割台半ば近くとなっている。(図表7-4)

性別でみると、「知っている」は男性全体(26.6%)が女性全体(19.4%)より7.2ポイント高い。

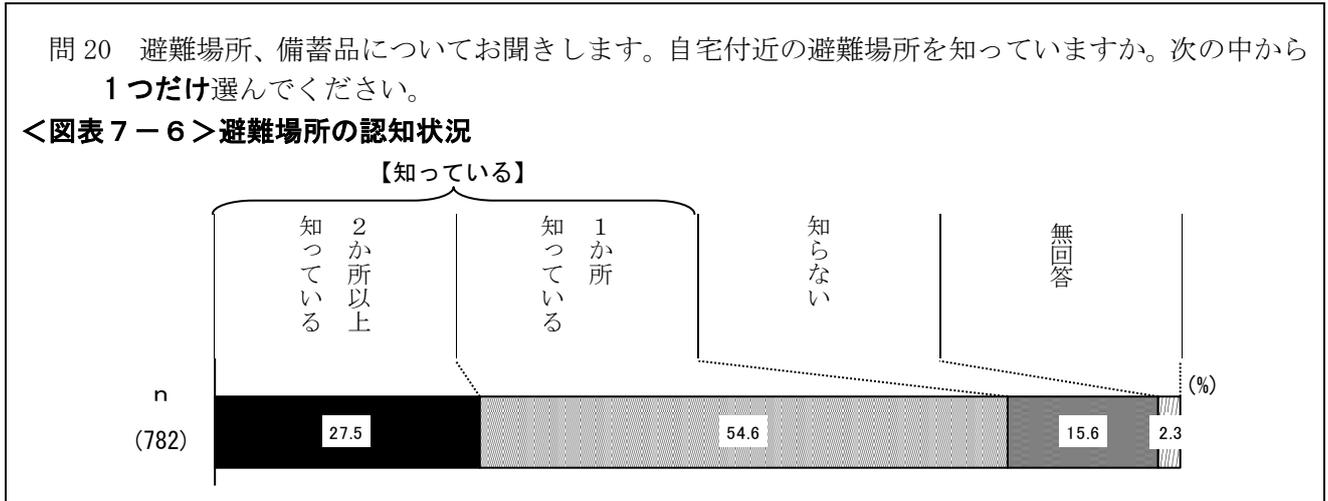
性・年代別でみると、「知っている」は男性の70歳以上(53.5%)で最も高く、男女ともに年代が高い層になるにつれて高くなる傾向がみられる。(図表7-5)

<図表 7-5> 自主防災組織の認知状況/性別、性・年代別



(3) 避難場所の認知状況

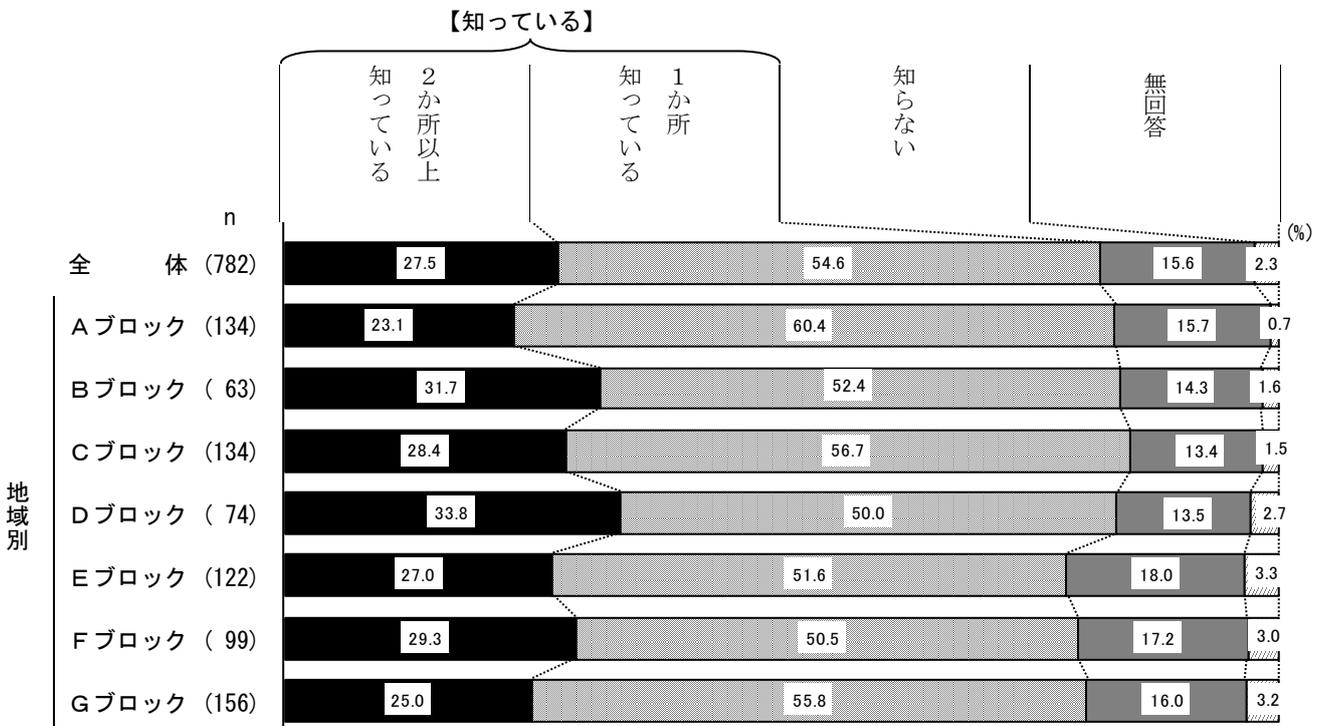
◇「2か所以上知っている」と「1か所知っている」を合わせた【知っている】が8割強



避難場所の認知状況について尋ねたところ、「2か所以上知っている」(27.5%)と「1か所知っている」(54.6%)を合わせた【知っている】(82.1%)が8割強となっている。一方、「知らない」(15.6%)は1割台半ばに留まる。(図表7-6)

地域別でみると、EブロックとFブロックを除く全ての地域で【知っている】が8割以上となっている。「知らない」はEブロック(18.0%)で最も高く、2割近くとなっている。(図表7-7)

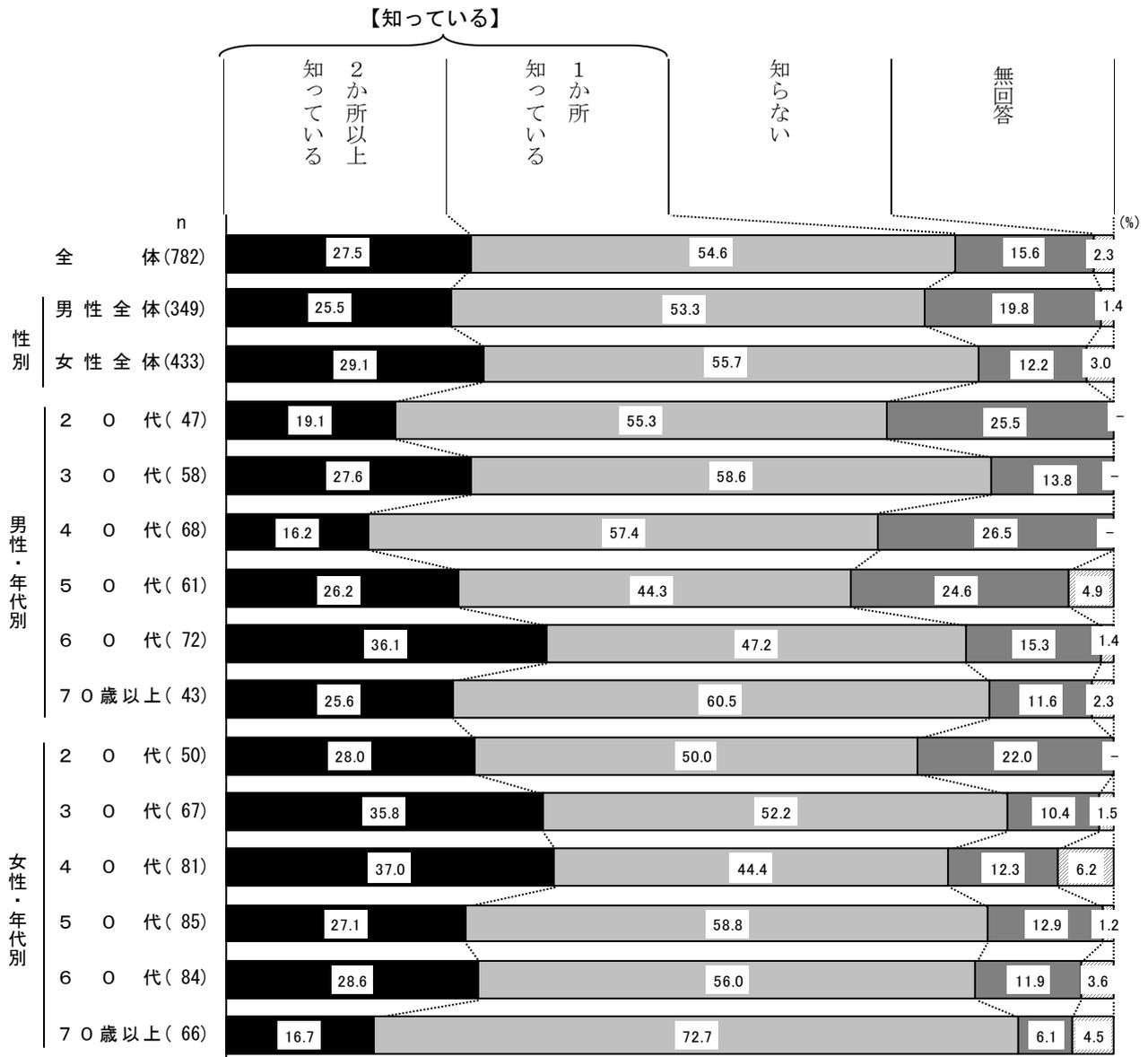
**<図表7-7> 避難場所の認知状況/地域別**



性別でみると、【知っている】は女性全体（84.8%）が男性全体（78.8%）より6.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性の70歳以上（89.4%）で最も高く、次いで女性の30代（88.0%）となっている。「知らない」は、男性の40代（26.5%）で最も高く、次いで男性の20代（25.5%）、50代（24.6%）、女性の20代（22.0%）で2割以上となっている。（図表7-8）

＜図表7-8＞避難場所の認知状況／性別、性・年代別

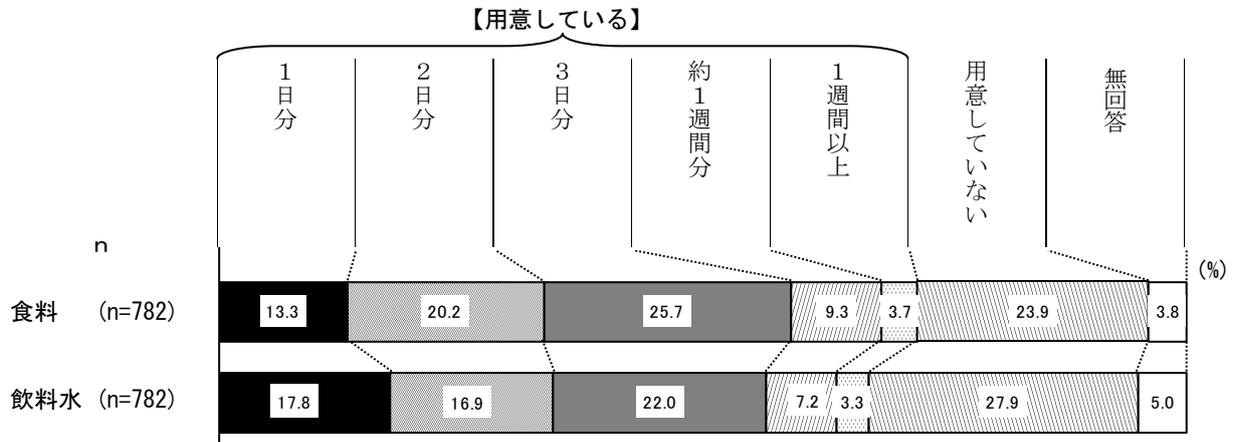


(4) 備蓄品の状況（食料・飲料水）

◇【用意している】は『食料』で7割強、『飲料水』で6割台半ばを超える

問 20-2 あなたのお宅では、非常持ち出し用を含めて家族の何日分の食料がありますか。また、家族の何日分の飲料水を備蓄していますか。次の項目について、それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。

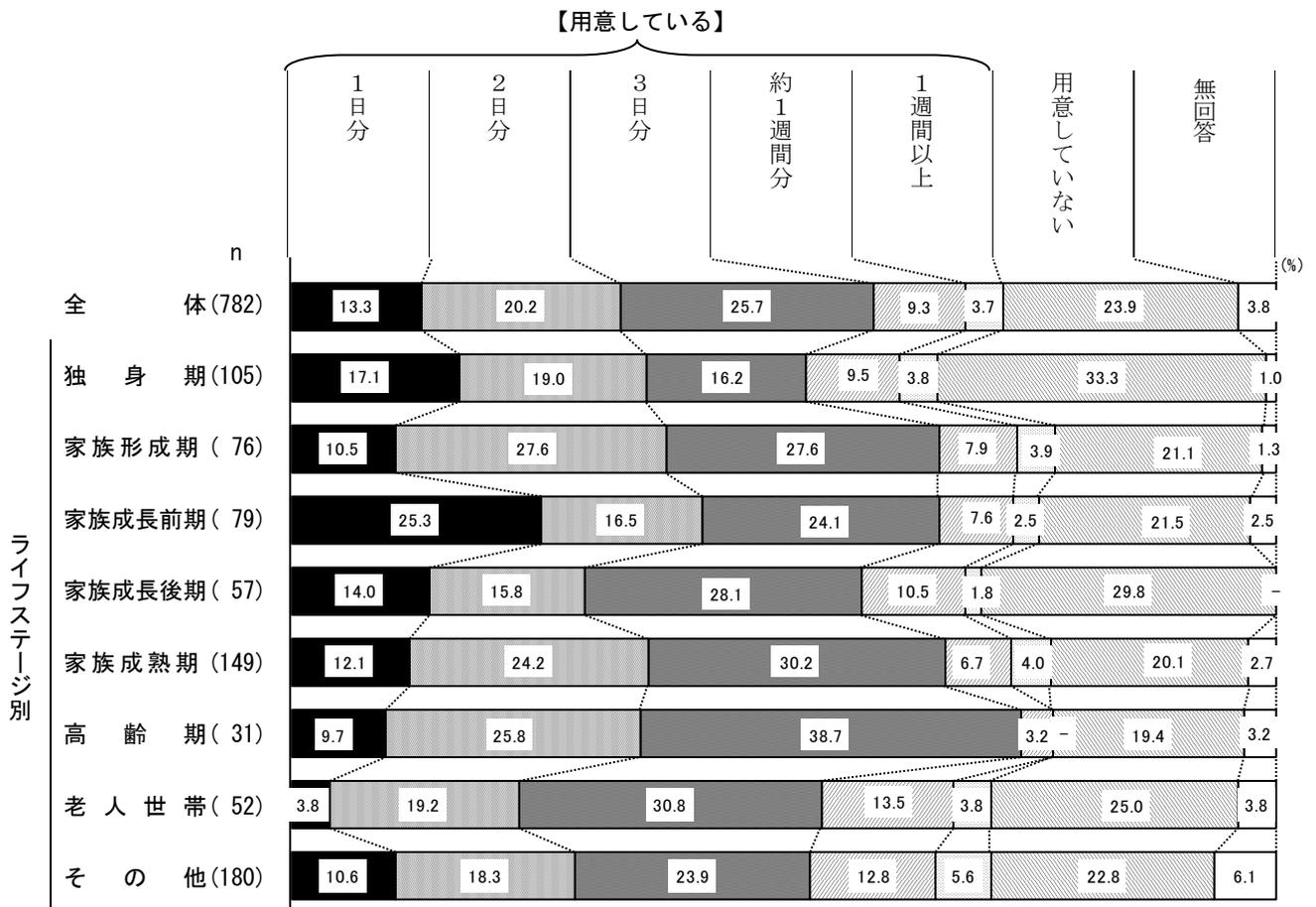
<図表7-9> 備蓄品の状況（食料・飲料水）



備蓄品の状況について尋ねたところ、『食料』では、【用意している】（72.2%）が7割強となっており、そのうち「3日分」（25.7%）が最も高い。『飲料水』では、【用意している】（67.2%）が6割台半ばを超えており、そのうち「3日分」（22.0%）が最も高い。（図表7-9）

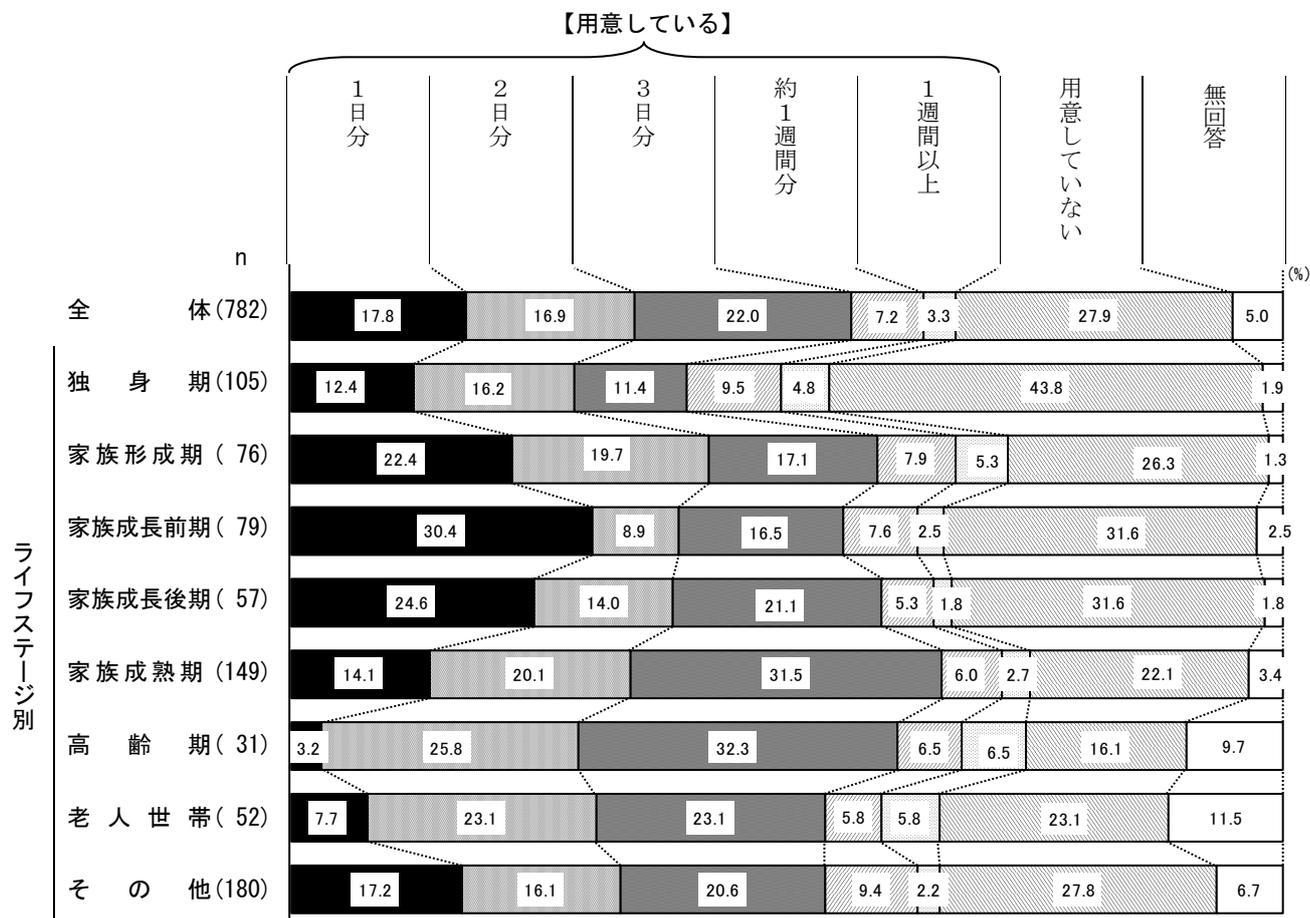
食料の備蓄状況について、ライフステージ別で見ると、【用意している】は家族形成期（77.5%）で最も高く、次いで「高齢期」（77.4%）、「家族成熟期」（77.2%）となっている。「用意していない」は独身期（33.3%）で最も高く、3割台半ば近くとなっている。（図表7-10）

<図表7-10> 備蓄品の状況（食料）／ライフステージ別



飲料水の備蓄状況について、ライフステージ別で見ると、【用意している】は家族成熟期（74.4%）、高齢期（74.3%）、家族形成期（72.4%）の順に高く、それぞれ7割以上となっている。「用意していない」は独身期（43.8%）で最も高く、次いで家族成長前期（31.6%）、家族成長後期（31.6%）となっている。（図表7-11）

＜図表7-11＞備蓄品の状況（飲料水）／ライフステージ別

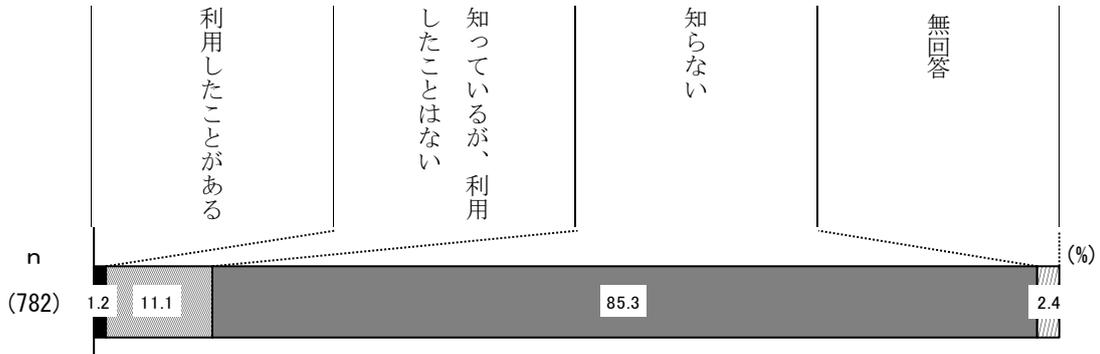


(5) 「音声確認ダイヤル」の認知状況

◇ 「知らない」が8割台半ば

問 21 防災行政無線放送についてお聞きします。福生市では、防災行政無線の内容が聞き取れなかった場合、電話で確認できる「防災無線音声確認ダイヤル (042-539-2061 または 042-539-2062)」を運用しています。あなたは、この「音声確認ダイヤル」を知っていますか。次の中から**1つだけ**選んでください。

<図表 7-12> 「音声確認ダイヤル」の認知状況

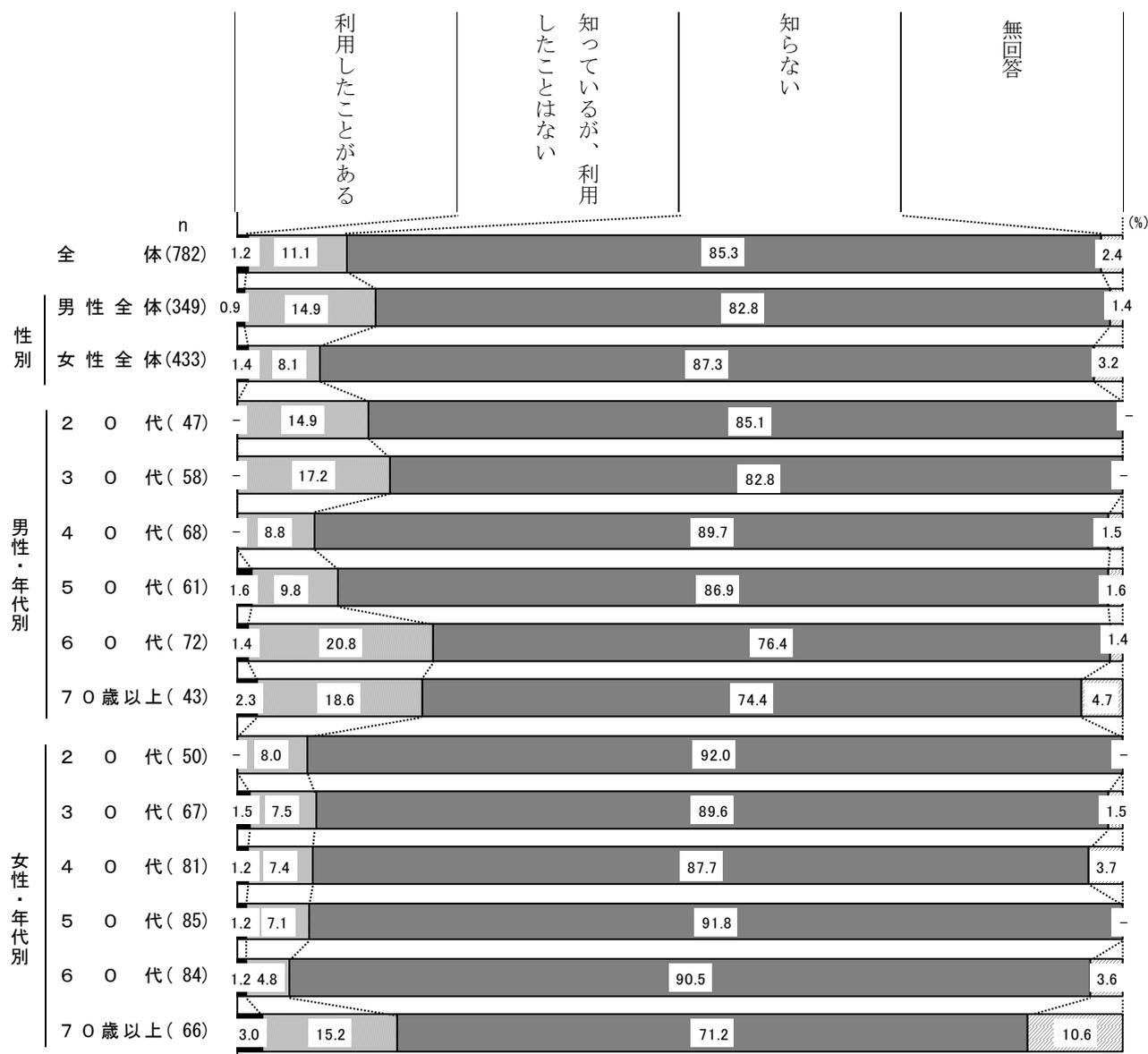


「音声確認ダイヤル」の認知状況について尋ねたところ、「知らない」(85.3%)が8割台半ばとなっており、「利用したことがある」は1割未満に留まる。(図表 7-12)

性別でみると、「知っているが、利用したことはない」は男性全体（14.9%）が女性全体（8.1%）より6.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「知っているが、利用したことはない」は男性の60代（20.8%）で最も高く、約2割となっており、次いで男性の70歳以上（18.6%）、30代（17.2%）、女性の70歳以上（15.2%）、男性の20代（14.9%）で1割以上となっている。一方、「知らない」は女性の20代（92.0%）、50代（91.8%）、60代（90.5%）で9割以上と高くなっている。（図表7-13）

＜図表7-13＞「音声確認ダイヤル」の認知状況／性別、性・年代別

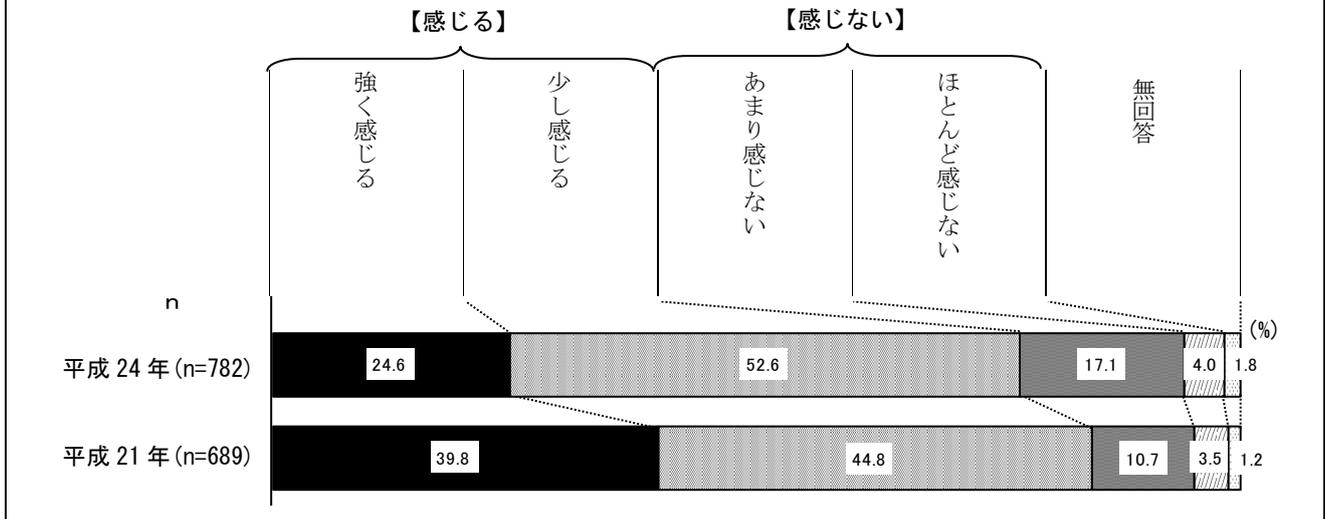


(6) 身近な犯罪への不安

◇「強く感じる」と「少し感じる」を合わせた【感じる】が7割台半ばを超える

問 22 身近な犯罪である「空き巣」、「ひったくり」、「振り込め詐欺」「悪徳商法」などについてお伺いします。身近な犯罪への不安を感じますか。次の中から**1つだけ**選んでください。

<図表7-14>身近な犯罪への不安

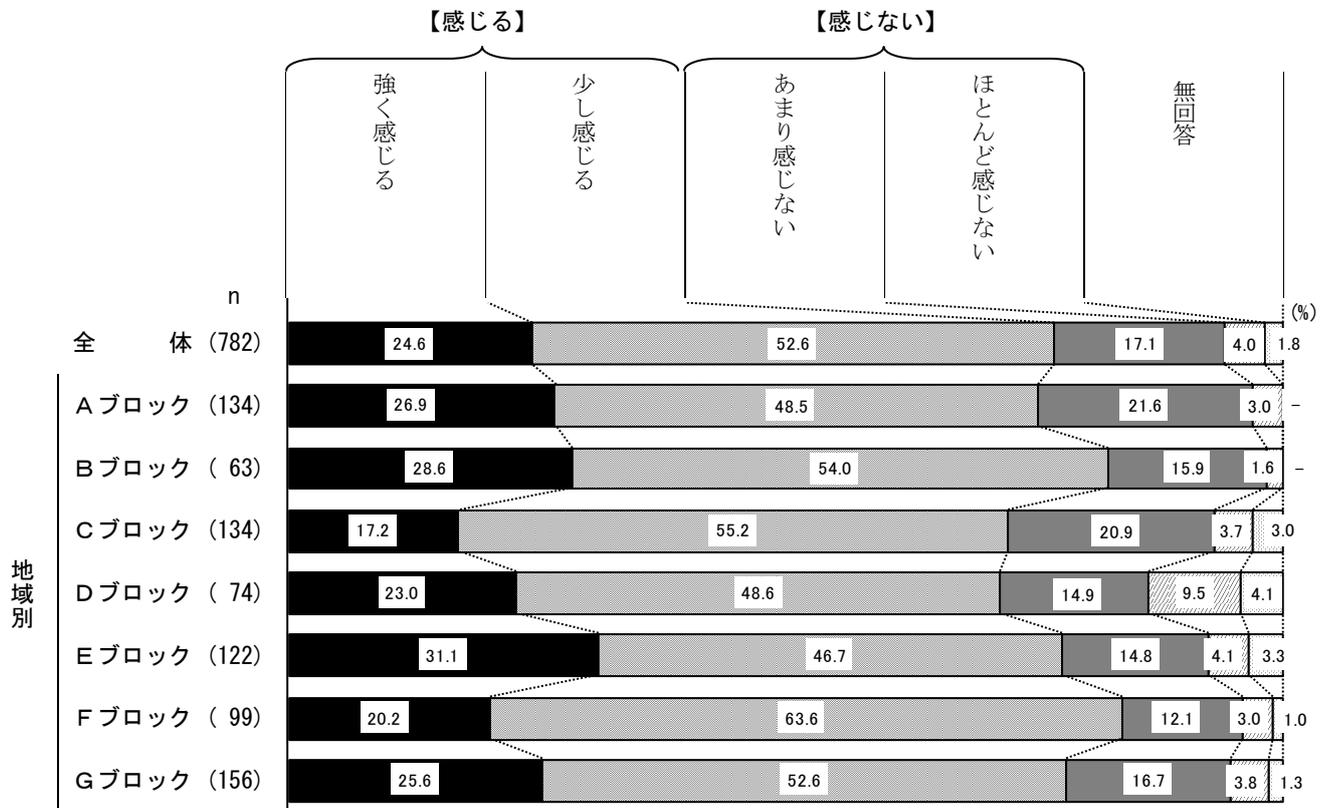


身近な犯罪への不安を尋ねた結果、「強く感じる」(24.6%)と「少し感じる」(52.6%)を合わせた【感じる】(77.2%)が7割台半ばを超える。一方、「あまり感じない」(17.1%)と「ほとんど感じない」(4.0%)を合わせた【感じない】(21.1%)は2割強に留まる。

平成21年度の調査結果と比較すると、【感じる】が7.4ポイント減少し、【感じない】が6.9ポイント増加している。(図表7-14)

地域別でみると、【感じる】はFブロック（83.8%）で最も高く、次いでBブロック（82.6%）となっている。そのうち、「強く感じる」はEブロック（31.1%）で最も高く、3割強となっている。一方、【感じない】はAブロック（24.6%）、Cブロック（24.6%）、Dブロック（24.4%）の順に高く、それぞれ2割以上となっている。（図表7-15）

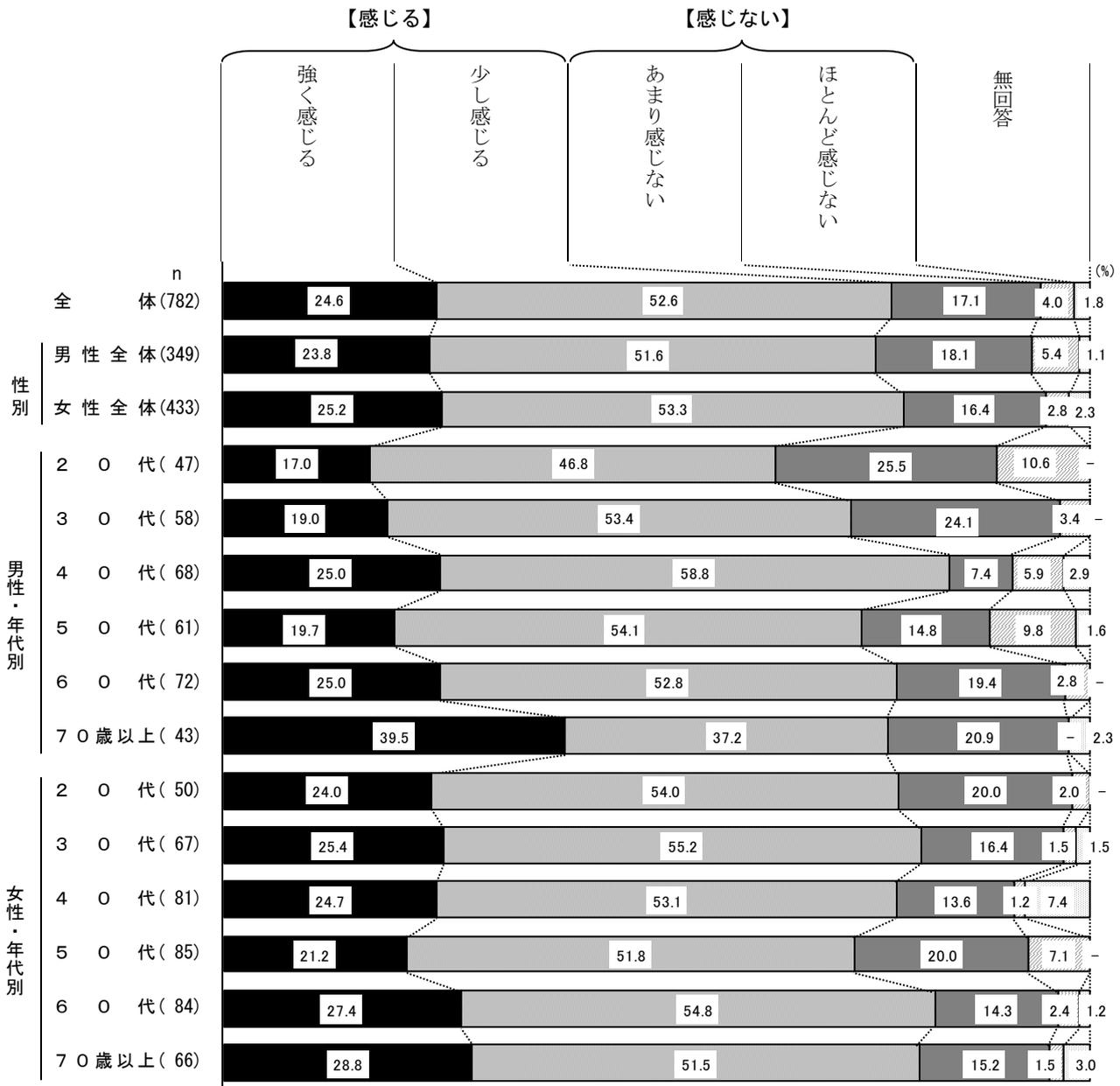
＜図表7-15＞身近な犯罪への不安／地域別



性別でみると、【感じる】は女性全体（78.5%）が男性全体（75.4%）より 3.1 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【感じる】は男性の 40 代（83.8%）で最も高く、次いで女性の 60 代（82.2%）、30 代（80.6%）、70 歳以上（80.3%）となっており、それぞれ 8 割以上となっている。「強く感じる」が男性の 70 歳以上（39.5%）で最も高い。一方、【感じない】は男性の 20 代（36.1%）で最も高くなっている。（図表 7-16）

＜図表 7-16＞身近な犯罪への不安／性別、性・年代別

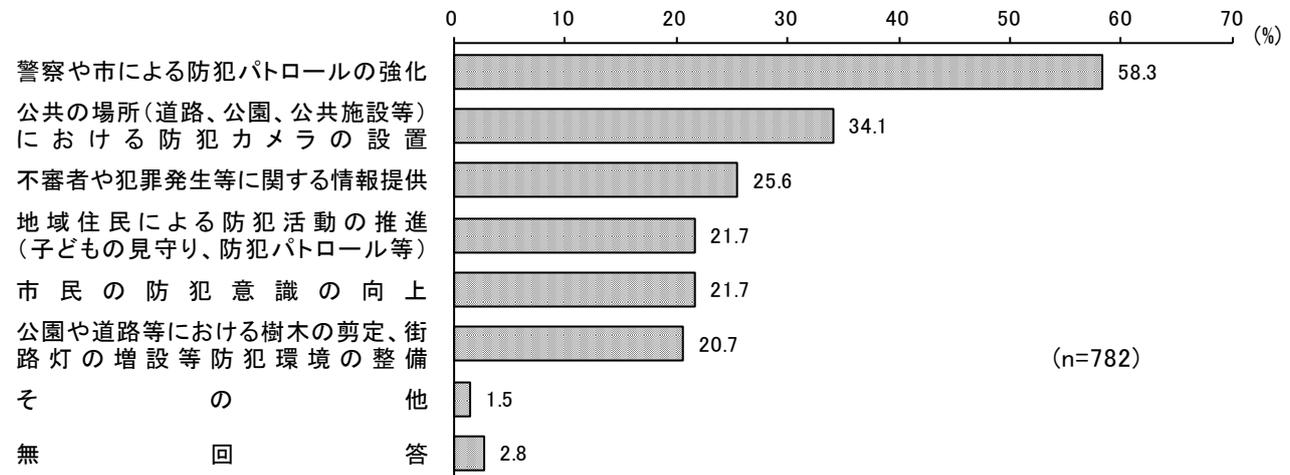


(7) 安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと

◇「警察や市による防犯パトロールの強化」が6割近く

問 23 安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために、あなたが特に必要だと思う防犯対策は何ですか。次の中から**2つまで**選んでください。

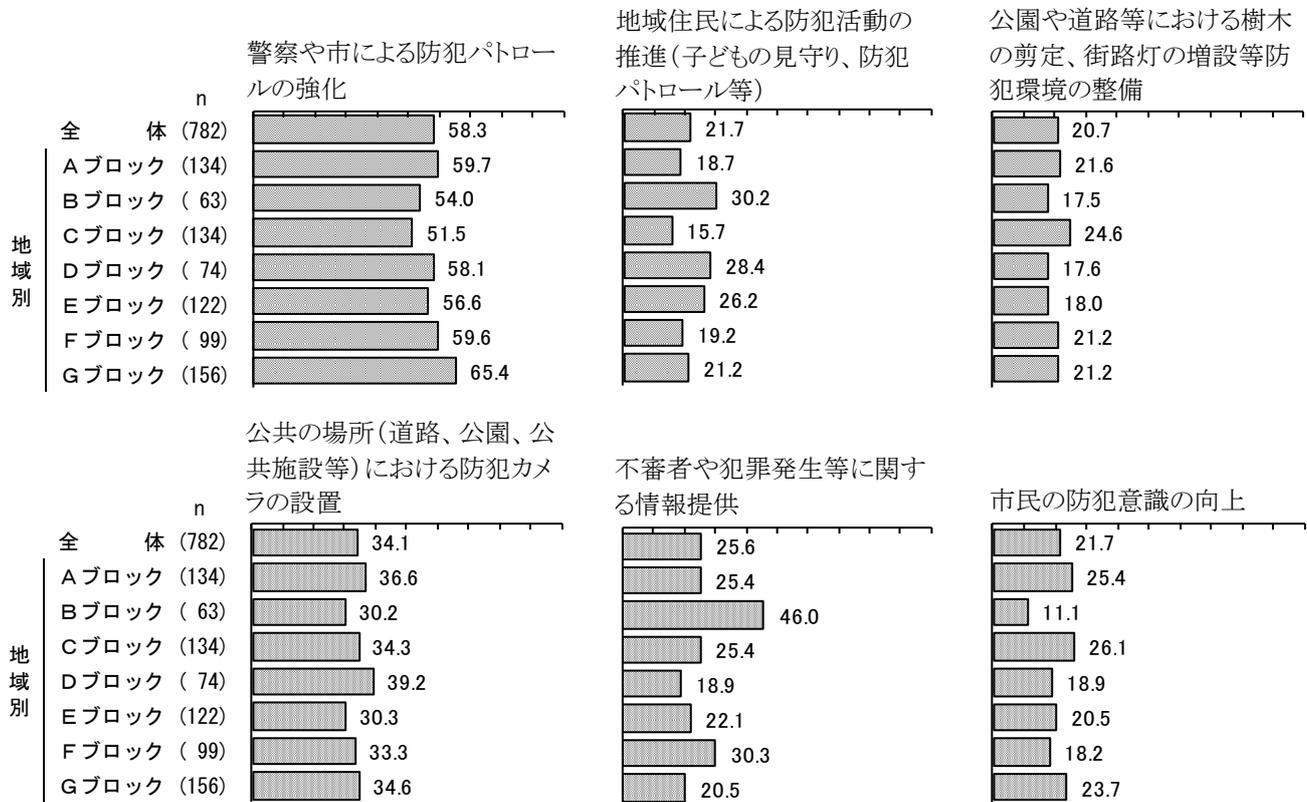
＜図表 7-17＞安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと（複数回答）



安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なことについて尋ねたところ、「警察や市による防犯パトロールの強化」(58.3%)が最も高く、6割近くとなっており、次いで「公共の場所における防犯カメラの設置」(34.1%)、「不審者や犯罪発生等に関する情報提供」(25.6%)となっている。(図表 7-17)

地域別でみると、「警察や市による防犯パトロールの強化」はGブロック（65.4%）で最も高く、その他のブロックでも5割以上となっている。「公共の場所における防犯カメラの設置」はDブロック（39.2%）で、「不審者や犯罪発生等に関する情報提供」はBブロック（46.0%）で最も高くなっている。（図表7-18）

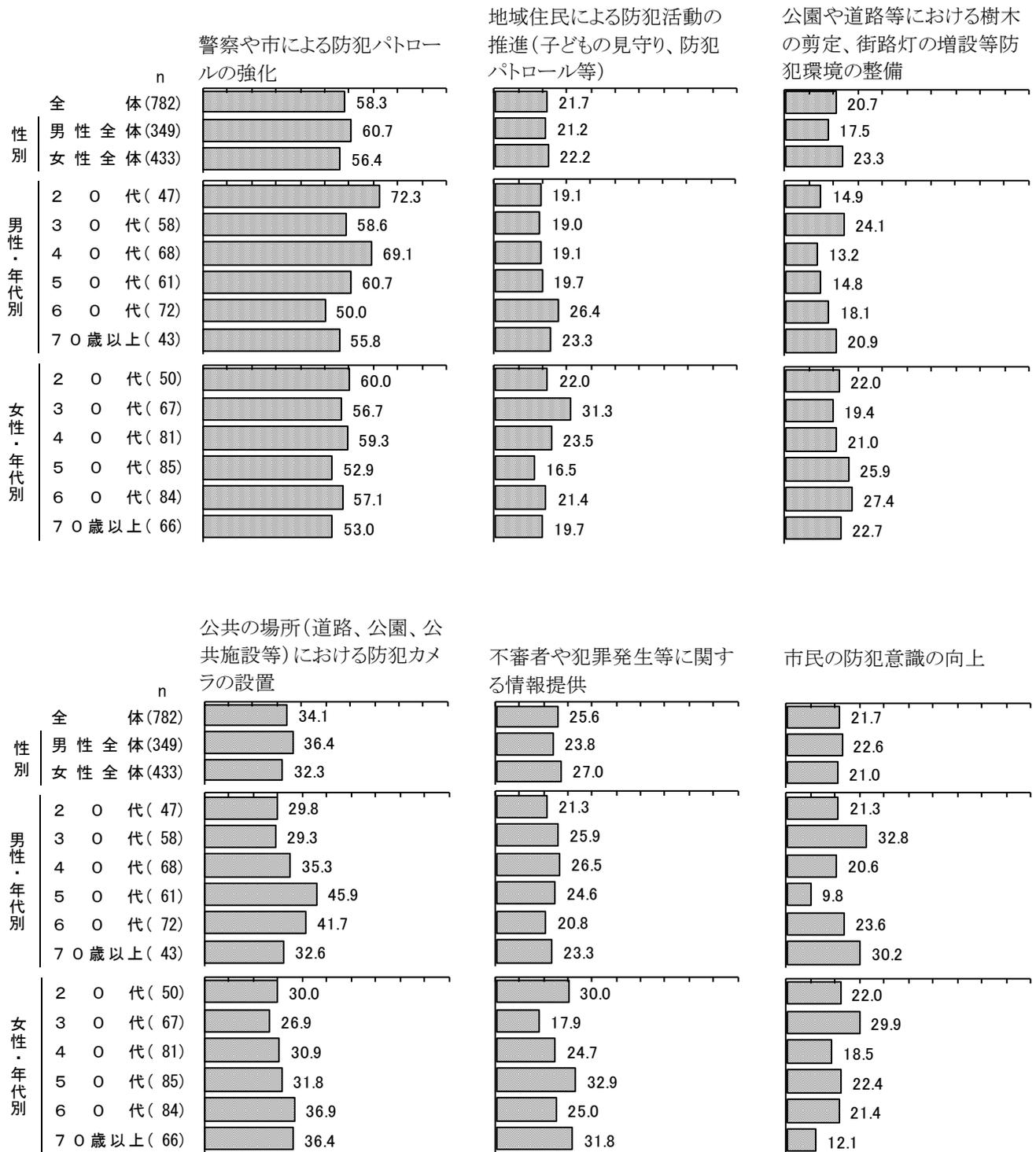
＜図表7-18＞安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと／地域別



性別でみると、「公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備」は、女性全体（23.3%）が男性全体（17.5%）より5.8ポイント高い。

性・年代別でみると、「警察や市による防犯パトロールの強化」は男性の20代（72.3%）で最も高く、次いで男性の40代（69.1%）、50代（60.7%）、女性の20代（60.0%）でそれぞれ6割以上となっている。「公共の場所における防犯カメラの設置」は男性の50代（45.9%）で、「不審者や犯罪発生等に関する情報提供」は女性の50代（32.9%）で最も高くなっている。（図表7-19）

**<図表7-19>安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと／性別、性・年代別**



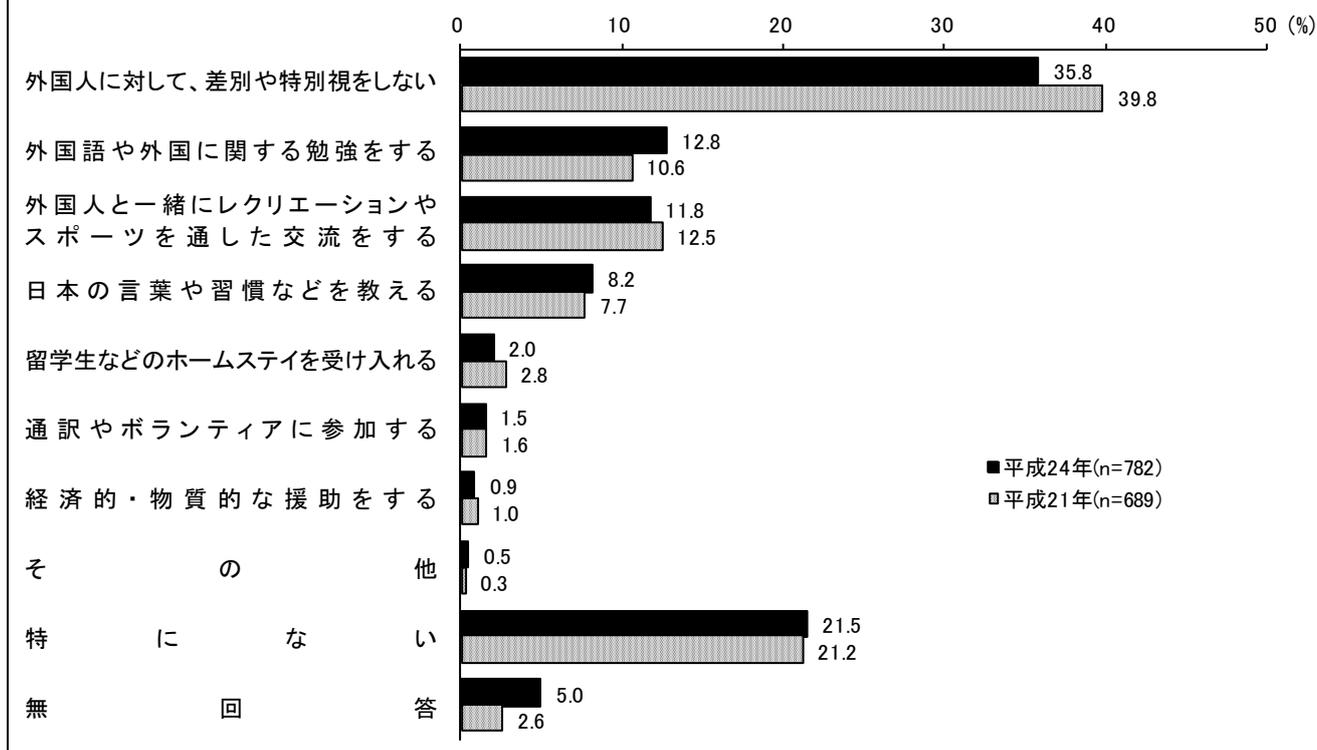
## 8. 国際化社会

### (1) 国際交流への参加意向

◇「外国人に対して、差別や特別視をしない」が3割台半ば

問 24 今後、外国との交流が進む中で、あなたが参加できることや、自分でしたいと思うのはどのようなことですか。次の中から**1つだけ**選んでください。

＜図表 8－1＞国際交流への参加意向



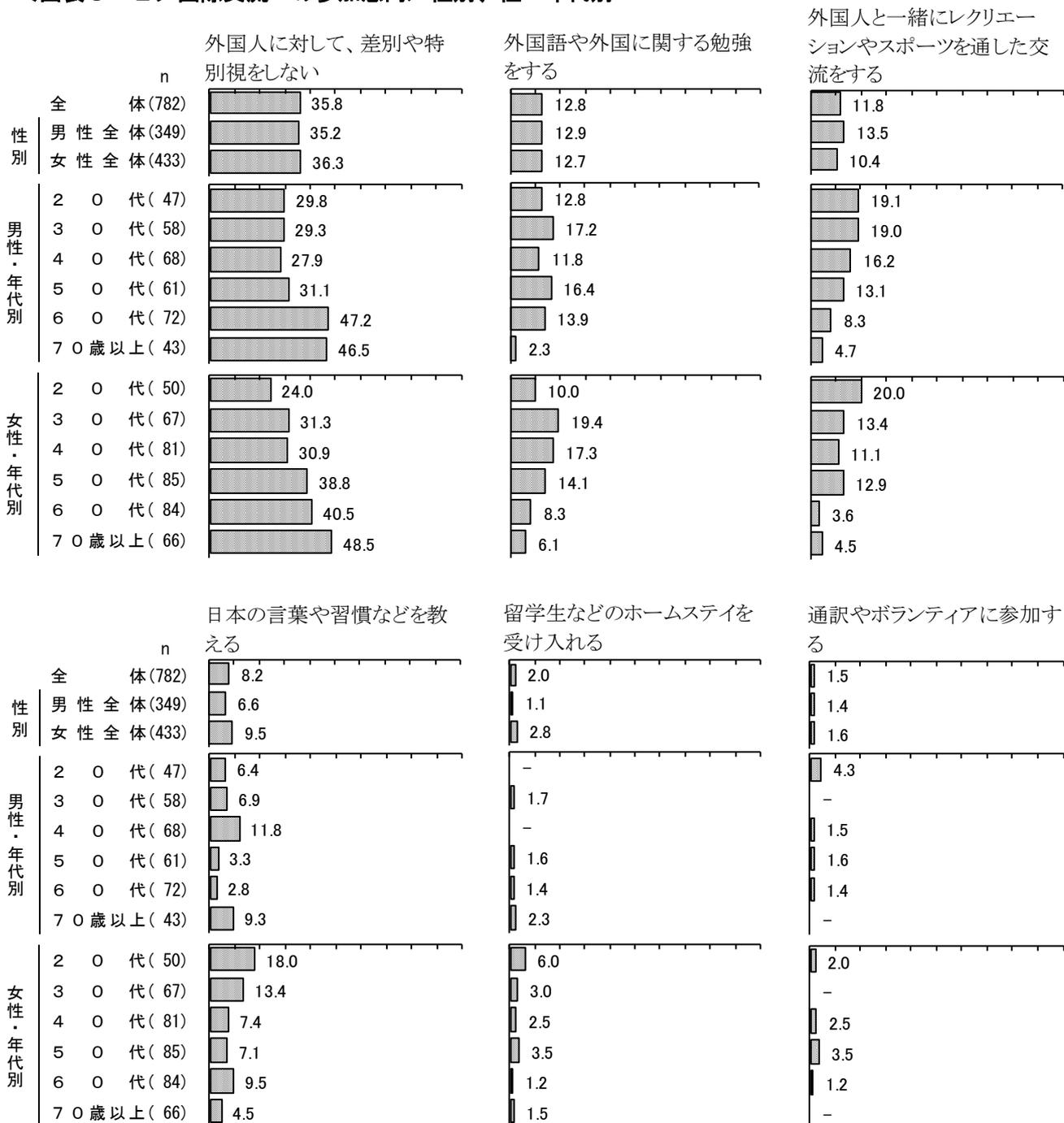
国際交流への参加意向について尋ねたところ、「外国人に対して、差別や特別視をしない」(35.8%)が最も高く3割台半ばとなっている。次いで、「外国語や外国に関する勉強をする」(12.8%)、「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通じた交流をする」(11.8%)となっている。(図表8－1)

平成21年度の調査結果と比較すると、「外国人に対して、差別をしたり、特別視をしない」が4.0ポイント減少し、「外国語や外国に関する勉強をする」が2.2ポイント増加している。(図表8－1)

性別でみると、男女で特に大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、「外国人に対して、差別や特別視をしない」は、女性の70歳以上（48.5%）で最も高く、男女ともに年代が高い層になるにつれて高くなる傾向が見られる。「外国語や外国に関する勉強をする」は女性の30代（19.4%）で最も高く、2割弱となっている。「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通じた交流をする」は女性の20代（20.0%）で最も高く、男女ともに若い層になるにつれて高くなる傾向が見られる。（図表8-2）

＜図表8-2＞国際交流への参加意向／性別、性・年代別

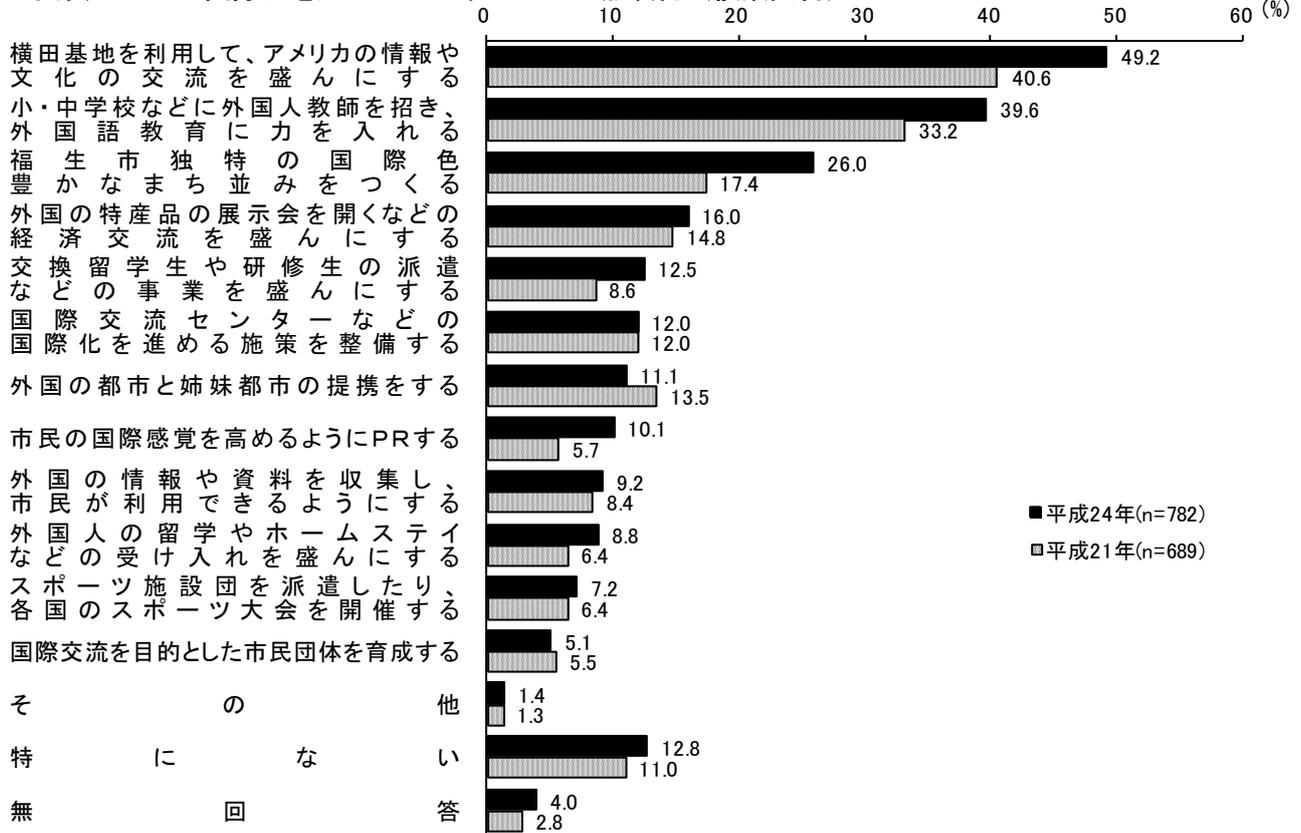


(2) 国際化を進めていくうえでの重点項目

◇「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」が5割弱

問 25 市が国際化を進めていく上で、特に力を入れるべきだと思うことを、次の中から**3つまで**選んでください。

<図表 8-3> 国際化を進めていくうえでの重点項目 (複数回答)



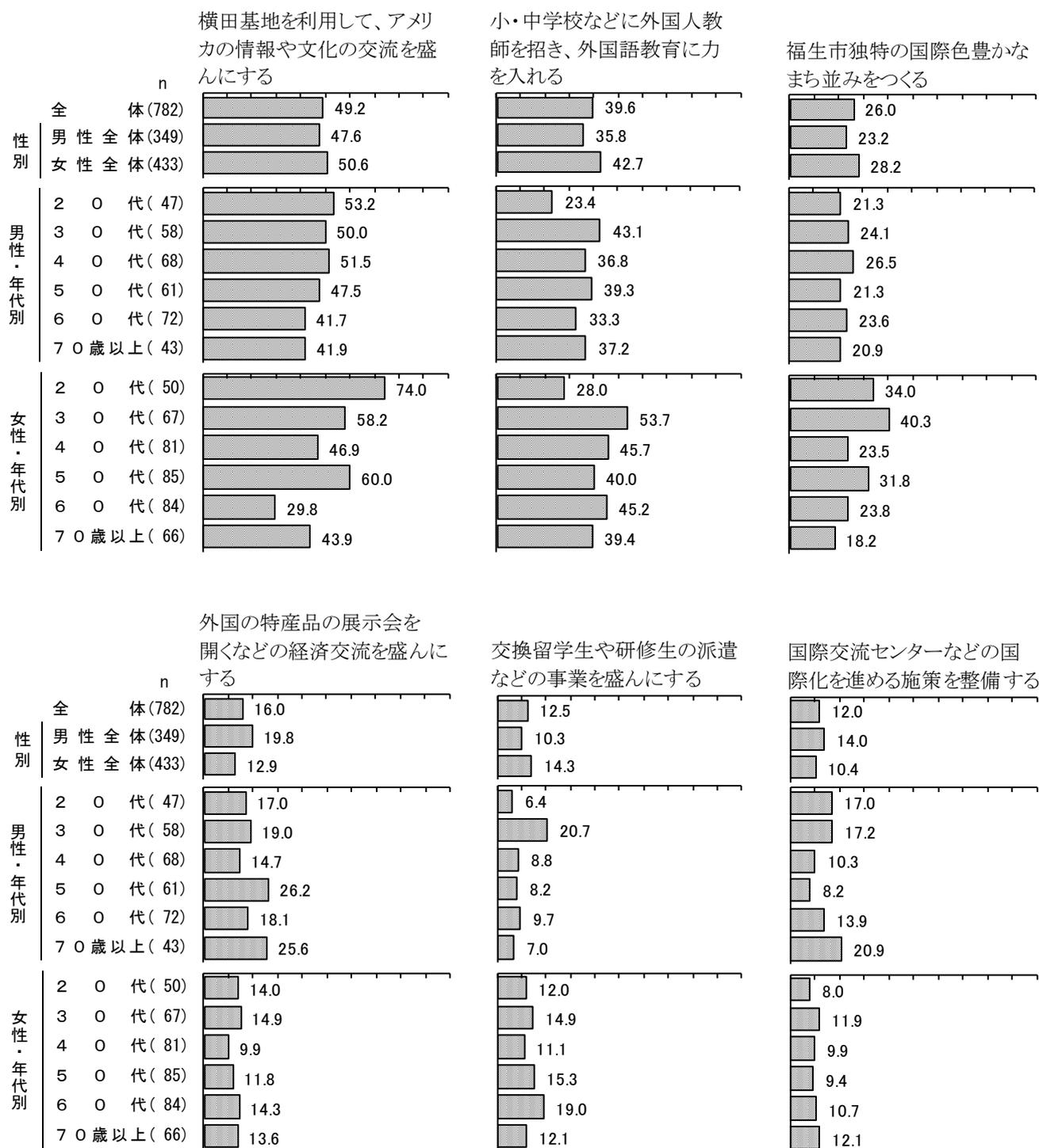
国際化を進めていくうえでの重点項目について尋ねたところ、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」(49.2%)が最も高く、5割弱となっている。次いで「小・中学校などに外国人教師を招き、外国語教育に力を入れる」(39.6%)、「福生市独特の国際色豊かなまち並みをつくる」(26.0%)となっている。(図表 8-3)

平成21年度の調査結果と比較すると、上位3項目での増加が大きい。(図表 8-3)

上位6項目を性別で見ると、「小・中学校などに外国人教師を招き、外国語教育に力を入れる」は女性全体（42.7%）が男性全体（35.8%）より6.9ポイント高く、「外国の特産品の展示会を開くなどの経済交流を盛んにする」は男性全体（19.8%）が女性全体（12.9%）より6.9ポイント高い。

性・年代別で見ると、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」は、女性の20代（74.0%）で最も高く、次いで50代（60.0%）、30代（58.2%）となっている。「小・中学校などに外国人教師を招き、外国語教育に力を入れる」は女性の30代（53.7%）で最も高い。（図表8-4）

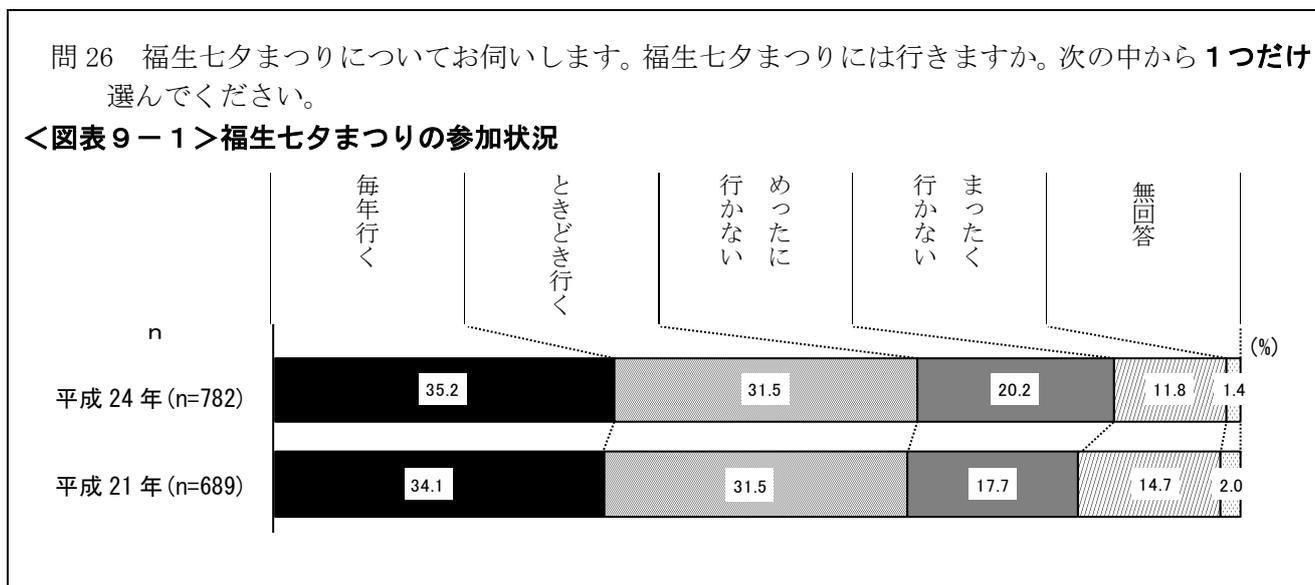
＜図表8-4＞国際化を進めていくうえでの重点項目／性別、性・年代別（上位6項目）



## 9. イベント・観光

(1) 福生七夕まつりの参加状況

◇「毎年行く」が3割台半ば、「ときどき行く」が3割強

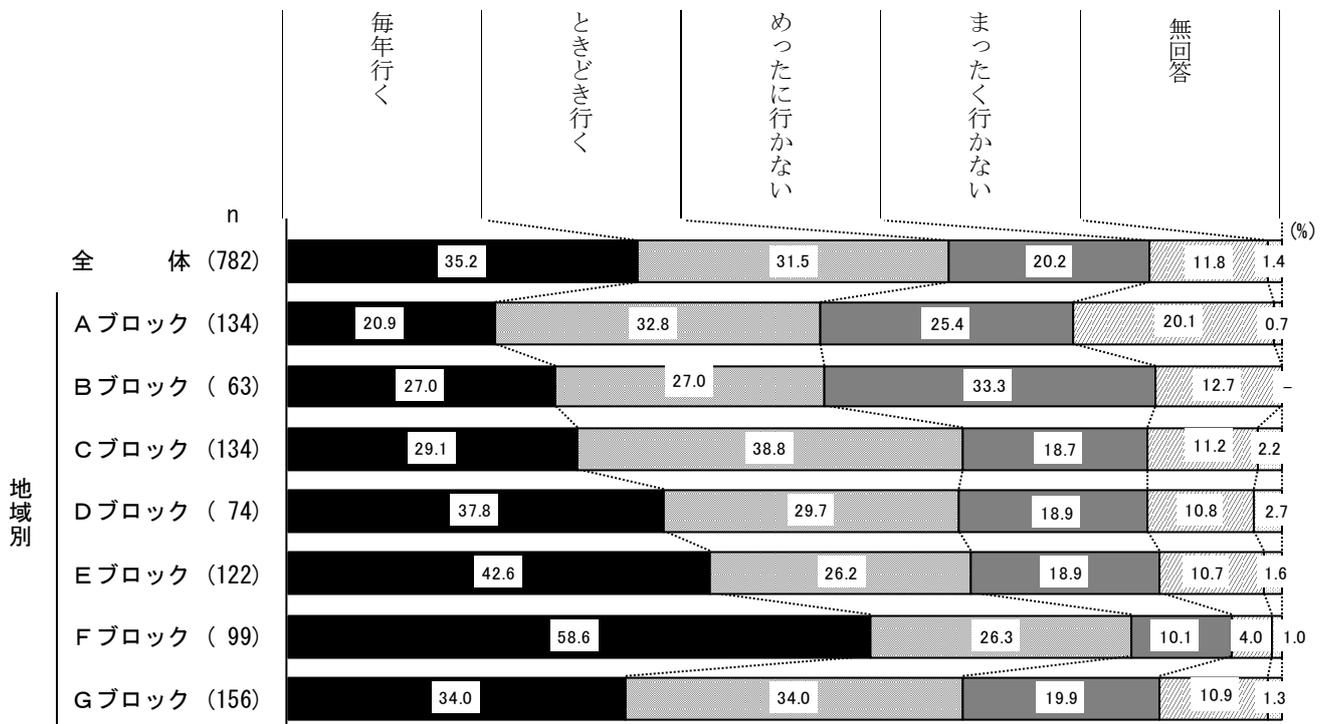


福生七夕まつりの参加状況について尋ねたところ、「毎年行く」(35.2%)が3割台半ば、「ときどき行く」(31.5%)が3割強、「めったに行かない」(20.2%)が約2割、「まったく行かない」(11.8%)が1割強となっている。

平成21年度の調査結果と比較すると、特に大きな変化はみられない。(図表 9-1)

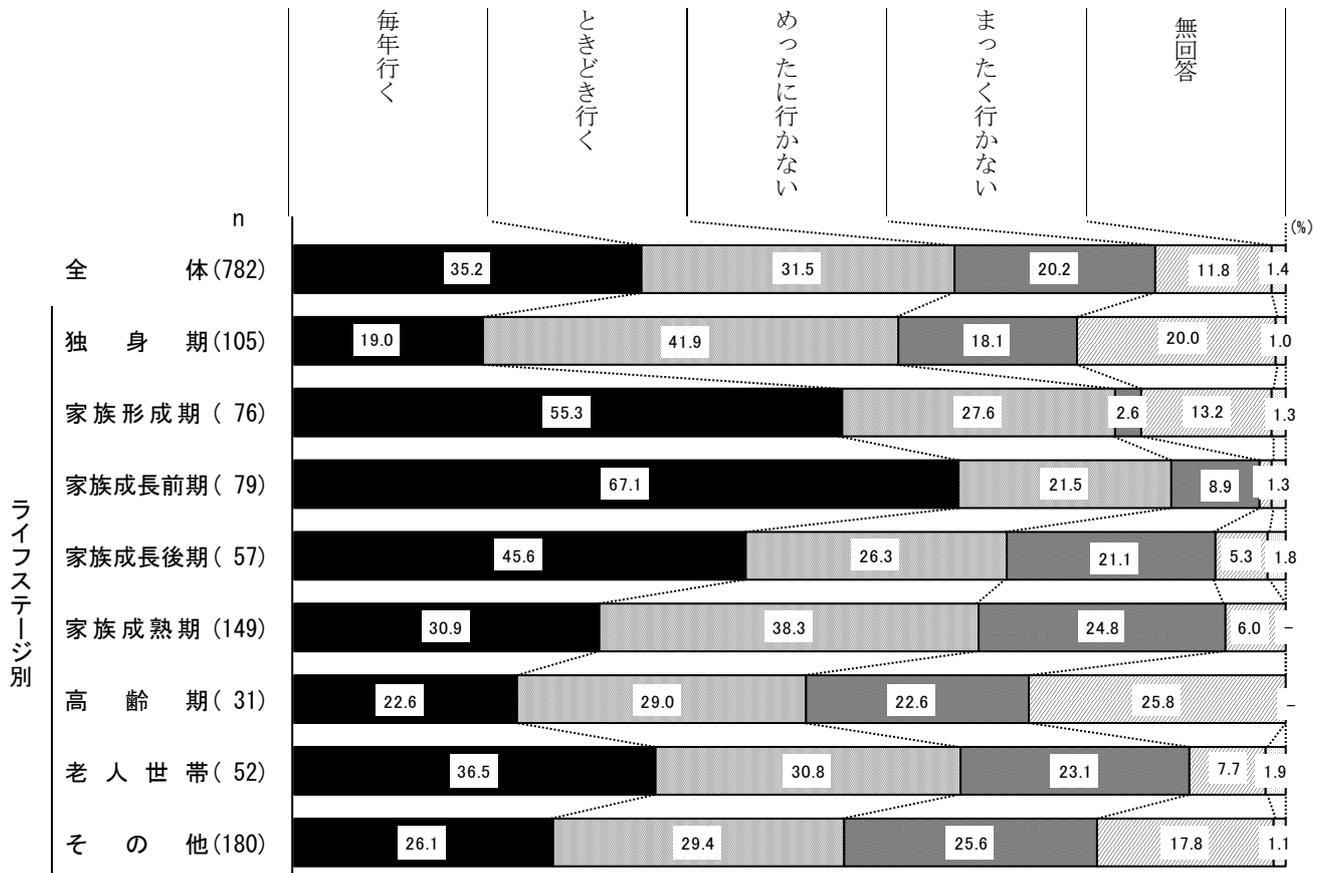
地域別でみると、「毎年行く」はFブロック（58.6%）で最も高く、6割近くとなっている。「まったく行かない」はAブロック（20.1%）で約2割と高い。（図表9-2）

＜図表9-2＞福生七夕まつりの参加状況／地域別



ライフステージ別でみると、「毎年行く」は家族成長前期（67.1%）で最も高く、6割台半ばを超えており、次いで家族形成期（55.3%）、家族成長後期（45.6%）となっている。「まったく行かない」は高齢期（25.8%）、独身期（20.0%）の順に高く、それぞれ2割以上となっている。（図表9-3）

＜図表9-3＞福生七夕まつりの参加状況／ライフステージ別

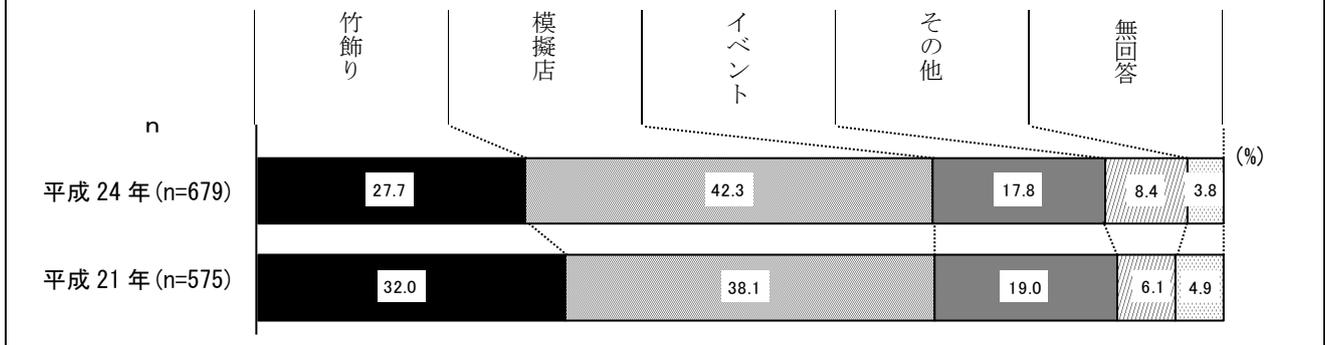


(2) 福生七夕まつりに行く理由

◇「模擬店」が4割弱

問 26-2 問 26 で「1 毎年行く」「2 ときどき行く」「3 めったに行かない」を選んだ方にお伺いします。七夕まつりに行く目的は何ですか。次の中から**1つだけ**選んでください。

<図表 9-4>福生七夕まつりに行く理由

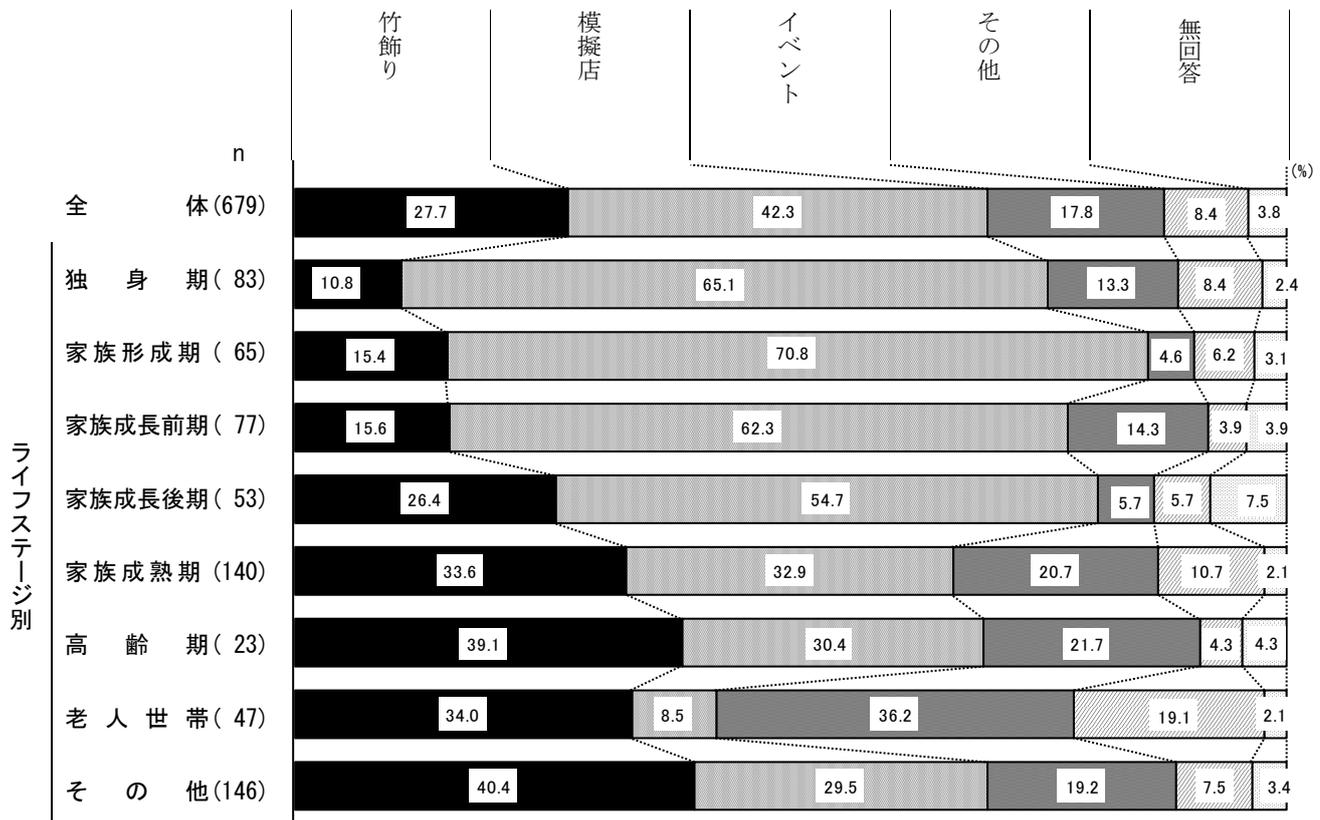


問26で「毎年行く」、「ときどき行く」、「めったに行かない」を選んだ方に、福生七夕まつりに行く理由を尋ねたところ、「模擬店」(42.3%)が4割強で最も高く、次いで「竹飾り」(27.7%)、イベント(17.8%)となっている。

平成21年度の調査結果と比較すると、「模擬店」が4.2ポイント増加し、「竹飾り」は4.3ポイント、「イベント」は1.2ポイント減少している。(図表 9-4)

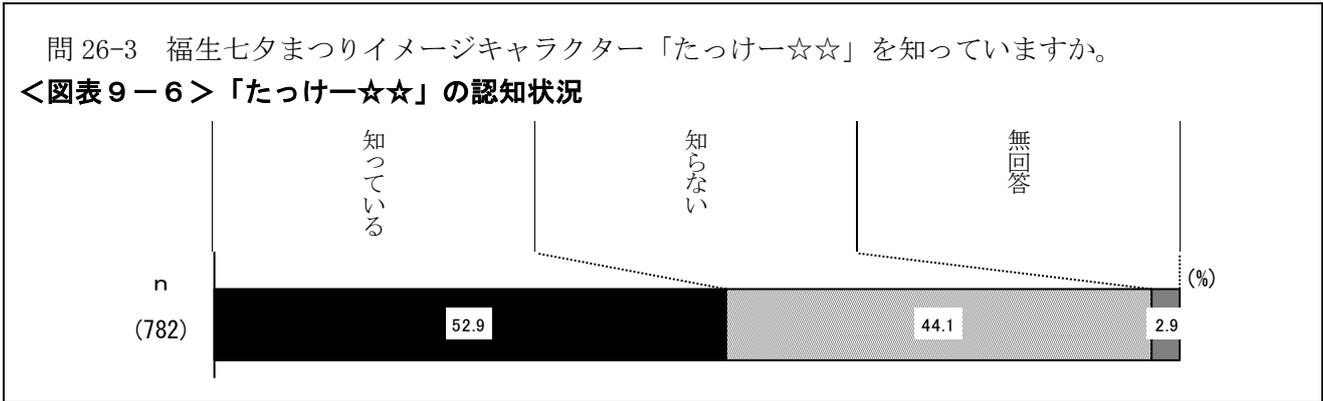
ライフステージ別でみると、「竹飾り」はライフステージが高い層になるにつれて高く、「模擬店」はライフステージが若い層になるにつれて高くなる傾向がみられる。(図表 9-5)

<図表 9-5>福生七夕まつりに行く理由/ライフステージ別



(3) 「たっけー☆☆」の認知状況

◇「知っている」が5割強、「知らない」が4割台半ば近く

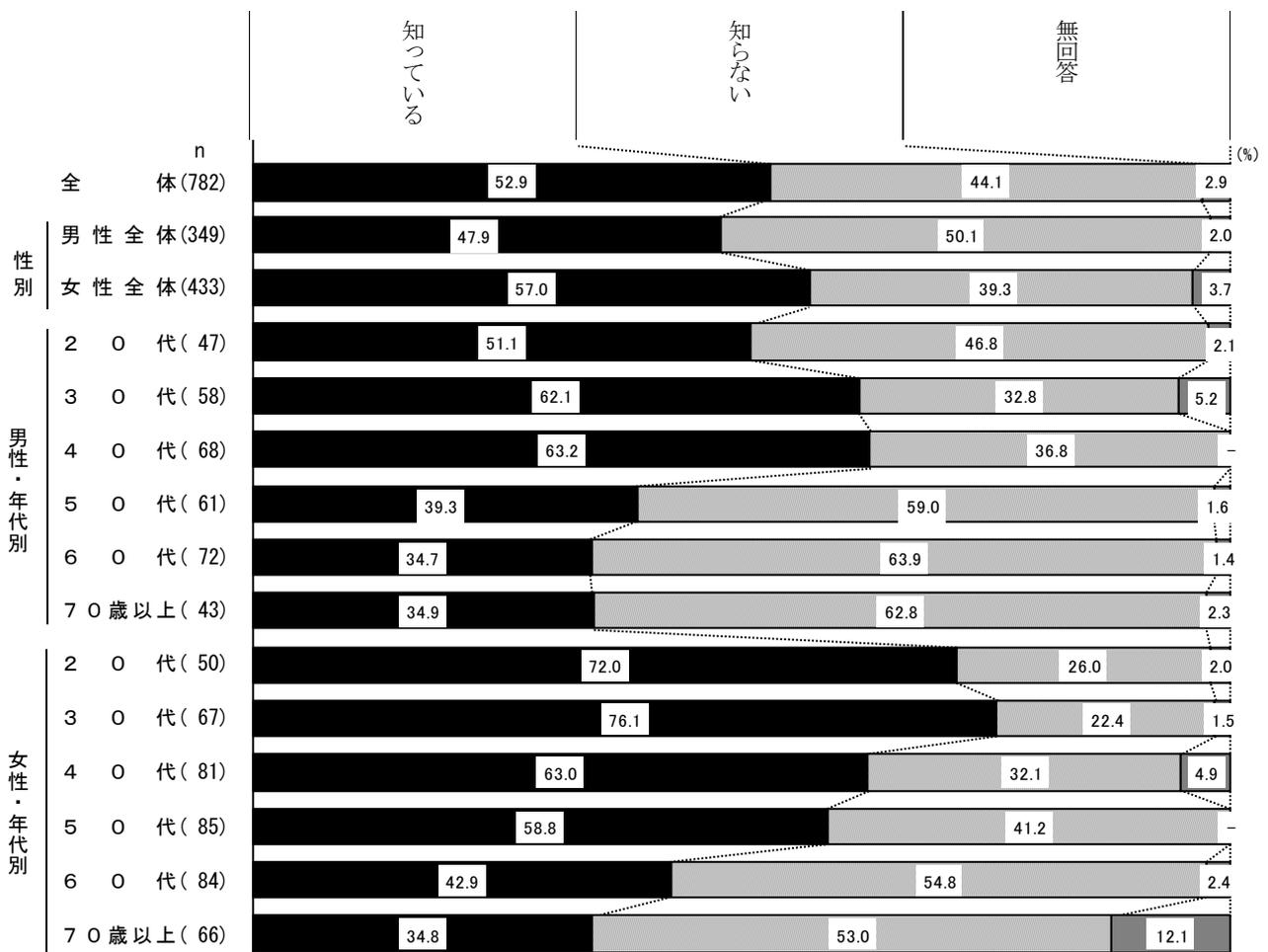


「たっけー☆☆」の認知状況を尋ねたところ、「知っている」(52.9%)が5割強、「知らない」(44.1%)が4割台半ば近くとなった。(図表9-6)

性別でみると、「知っている」は女性全体(57.0%)が男性全体(47.9%)より9.1ポイント高い。

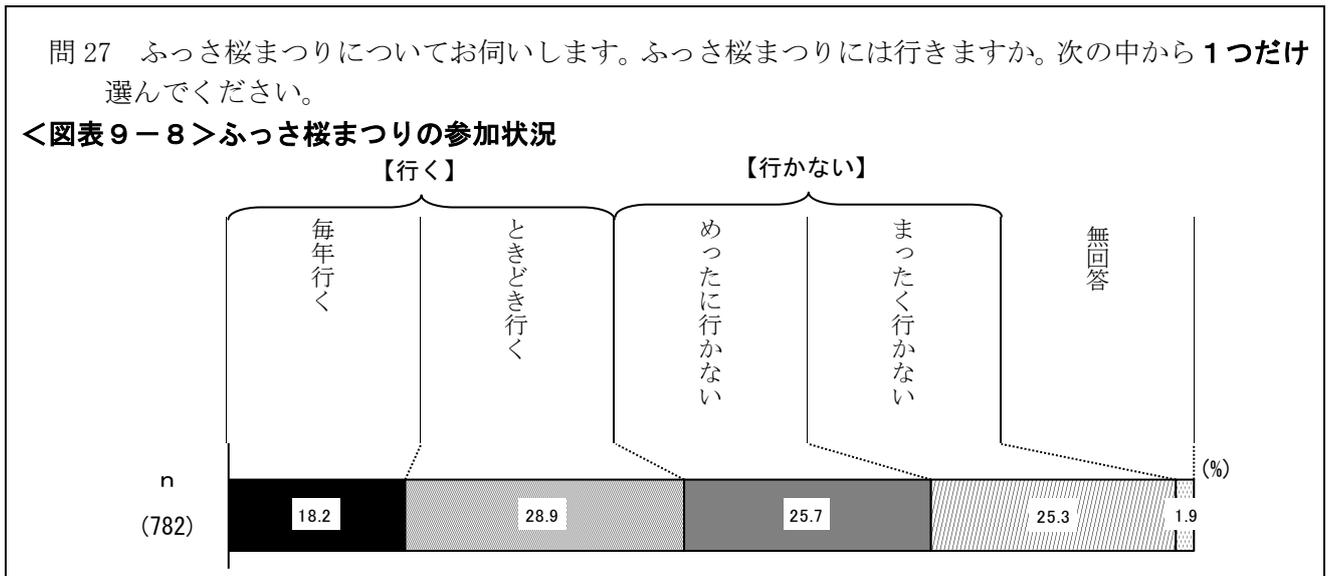
性・年代別でみると、「知っている」は女性の30代(76.1%)で最も高く、女性では、年代が若い層になるにつれて高くなる傾向がみられる。「知らない」は男性の60代以上の年代で6割以上と高い。(図表9-7)

**<図表9-7> 「たっけー☆☆」の認知状況/性別、性・年代別**



(4) ふっさ桜まつりの参加状況

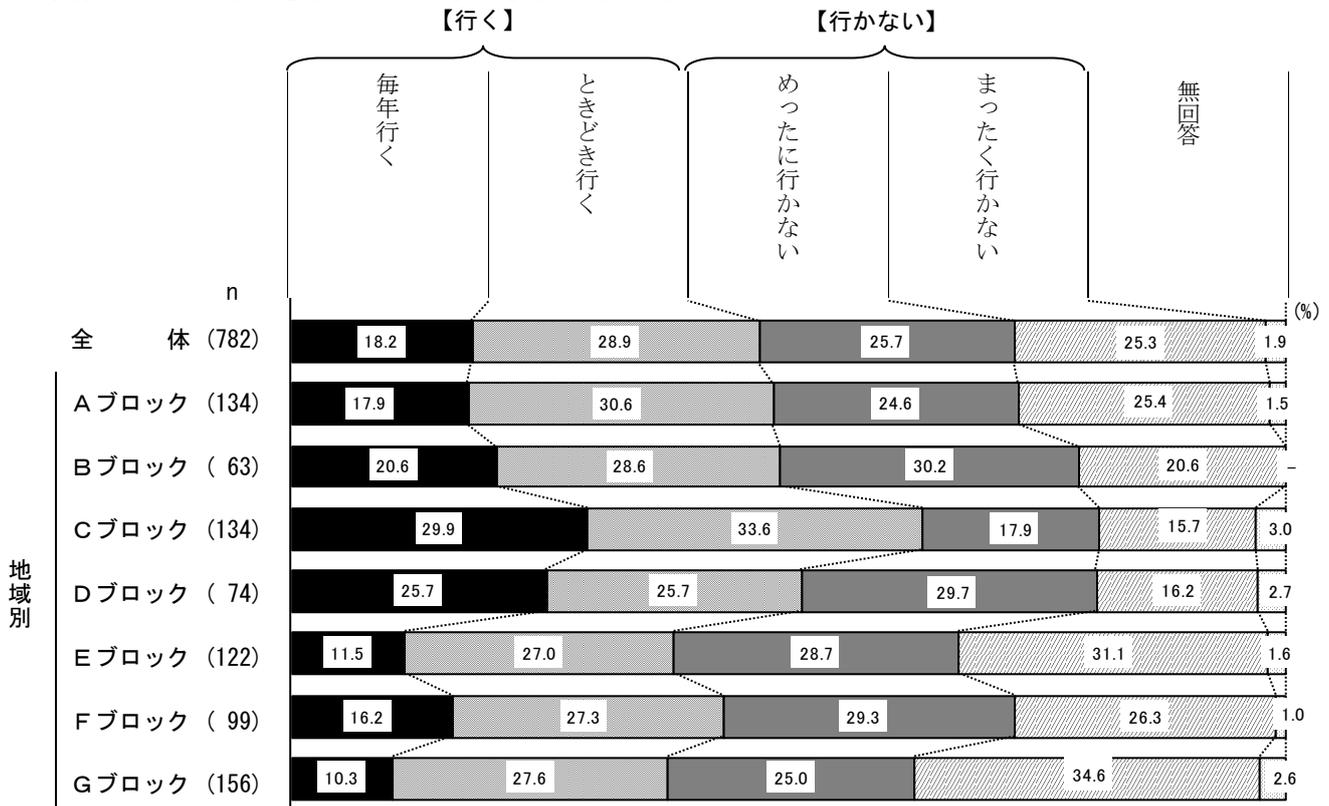
◇「毎年行く」と「ときどき行く」を合わせた【行く】が4割台半ばを超える



ふっさ桜まつりの参加状況を尋ねたところ、「毎年行く」(18.2%)と「ときどき行く」(28.9%)を合わせた【行く】(47.1%)が4割台半ばを超える。一方、「めったに行かない」(25.7%)と「まったく行かない」(25.3%)を合わせた【行かない】(51.0%)は5割強となっている。(図表9-8)

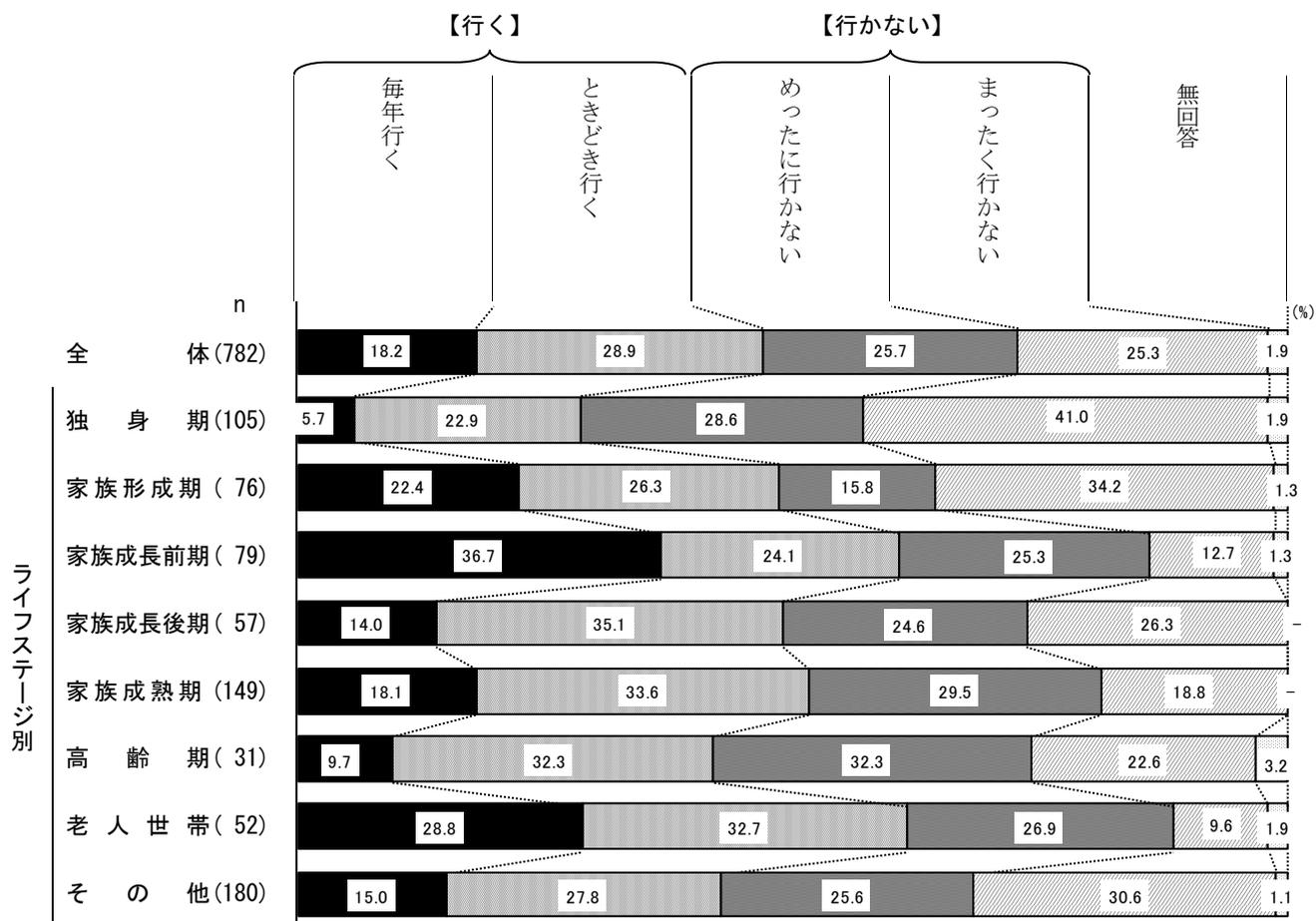
地域別でみると、【行く】はCブロック(63.5%)、Dブロック(51.4%)の順に高く、「毎年行く」はCブロック(29.9%)で最も高い。「まったく行かない」はGブロック(34.6%)、Eブロック(31.1%)の順に高く、それぞれ3割以上となっている。(図表9-9)

<図表9-9>ふっさ桜まつりの参加状況/地域別



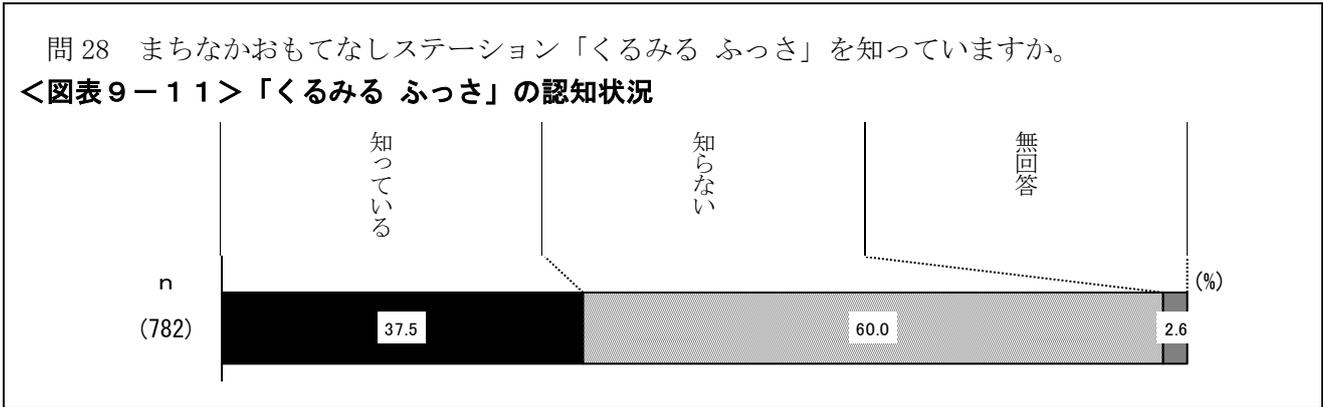
ライフステージ別でみると、【行く】は老人世帯（61.5%）で最も高く、次いで家族成長前期（60.8%）とそれぞれ6割以上となっている。「毎年行く」は家族成長前期（36.7%）で最も高い。【行かない】は独身期（69.6%）で最も高く、7割弱となっている。（（図表9-10））

<図表9-10>ふっさ桜まつりの参加状況／ライフステージ別



(5) 「くるみる ふっさ」の認知状況

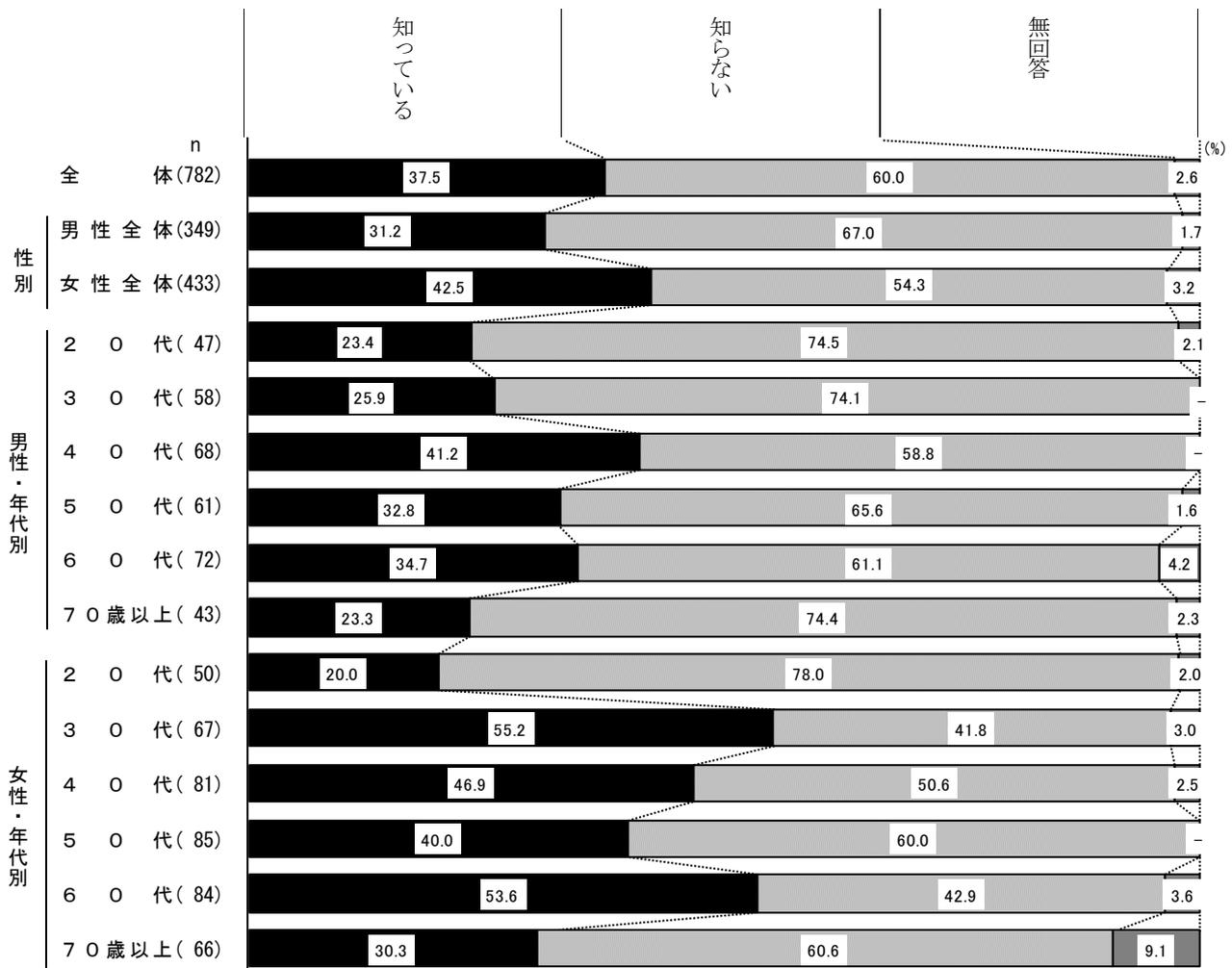
◇ 「知っている」が3割台半ばを超える



「くるみる ふっさ」の認知状況を尋ねたところ、「知っている」(37.5%)が3割台半ばを超え、「知らない」(60.0%)が6割となっている。(図表9-11)

性別で見ると、「知っている」は、女性全体(42.5%)が男性全体(31.2%)より11.3ポイント高い。性・年代別で見ると、「知っている」は女性の30代(55.2%)で最も高く、次いで60代(53.6%)となっている。一方、「知らない」は女性の20代(78.0%)で最も高く、次いで男性の20代(74.5%)、70歳以上(74.4%)、30代(74.1%)となっており、それぞれ7割以上を占めている。(図表9-12)

<図表9-12> 「くるみる ふっさ」の認知状況/性別、性・年代別

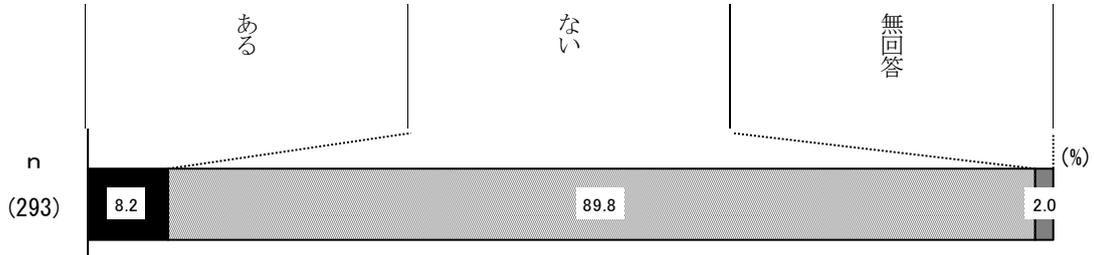


(6) 「くるみる ふっさ」の利用状況

◇ 「ある」が1割近く、「ない」が9割弱

問 28-2 問 28 で「1 知っている」を選んだ方にお伺いします。まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」を利用したことがありますか。

<図表 9-13> 「くるみる ふっさ」の利用状況

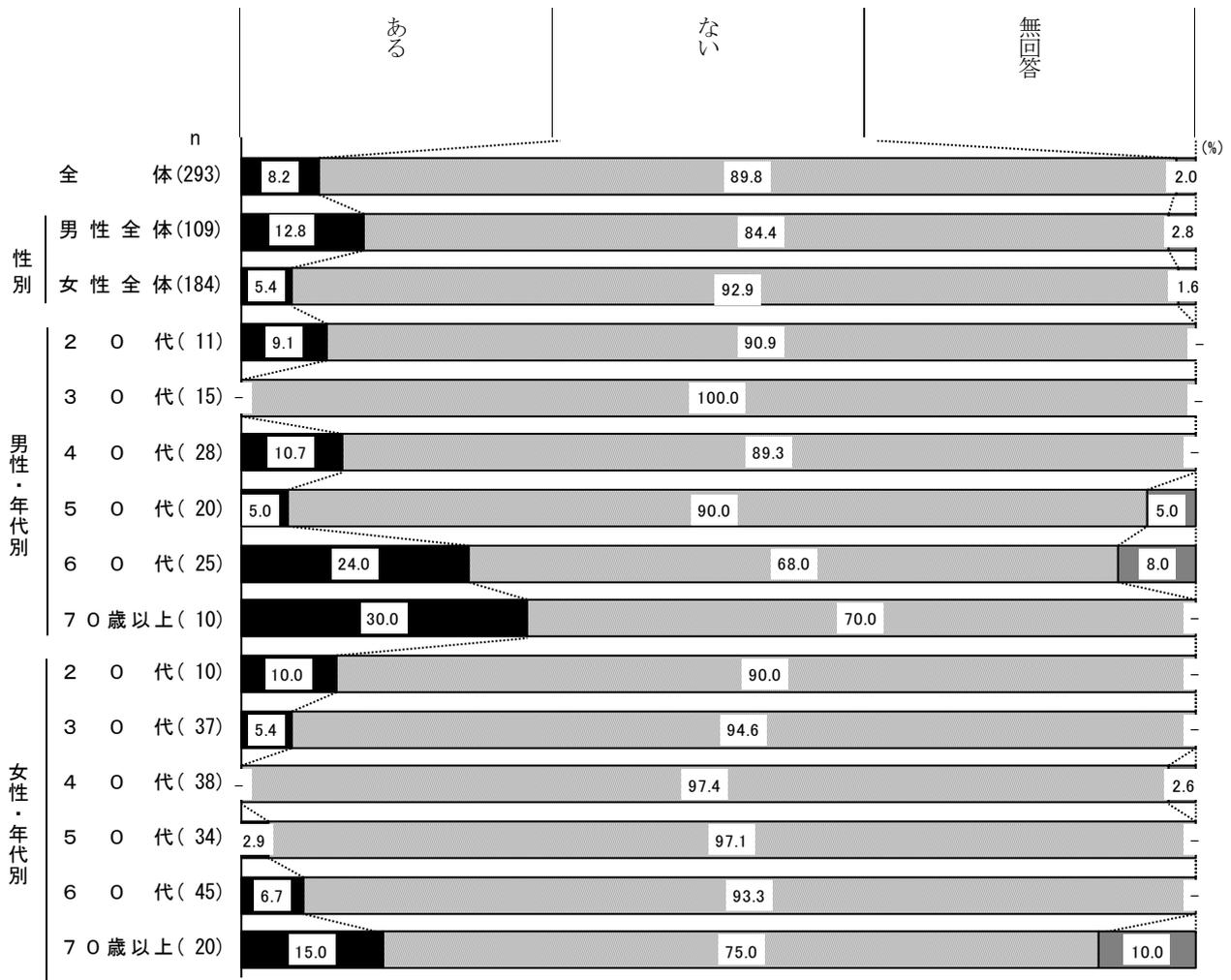


問28で「知っている」を選んだ方に「くるみる ふっさ」の利用状況について尋ねたところ、「ある」(8.2%)は1割近くに留まり、「ない」(89.8%)が9割弱となっている。(図表 9-13)

性別でみると、「ある」は男性全体(12.8%)で女性全体(5.4%)より7.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「ある」は男性の70歳以上(30.0%)で最も高く、次いで60代(24.0%)、女性の70歳以上(15.0%)となっている。(図表 9-14)

<図表 9-14> 「くるみる ふっさ」の利用状況/性別、性・年代別

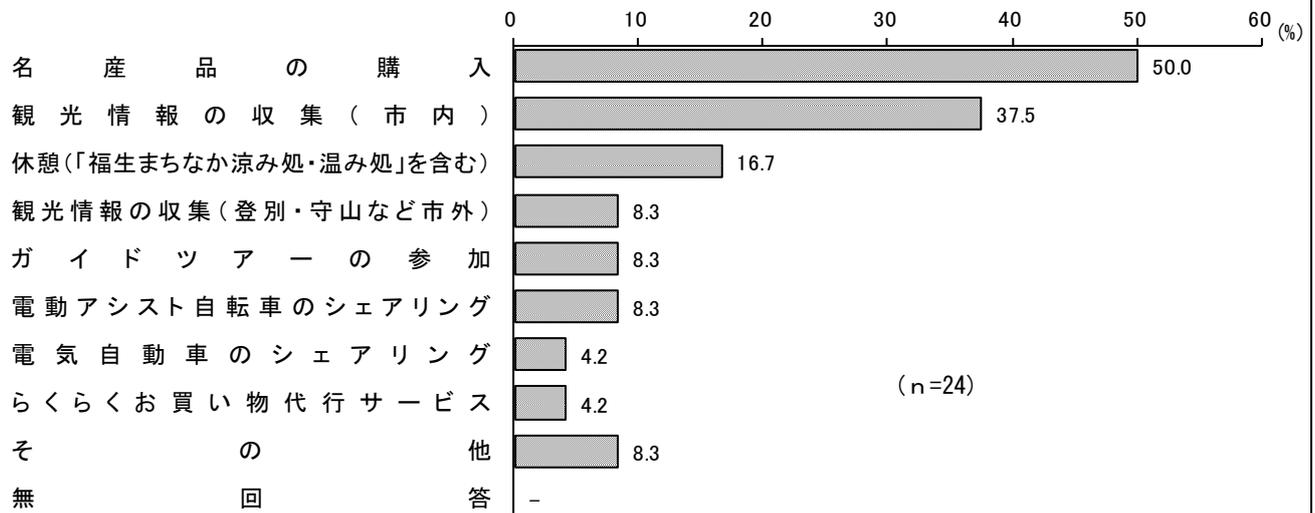


(7) 「くるみる ふっさ」の利用目的

◇「名産品の購入」が5割、「観光情報の収集（市内）」が3割台半ばを超える

問 28-3 問 28-2 で「1 ある」を選んだ方にお伺いします。利用した目的は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

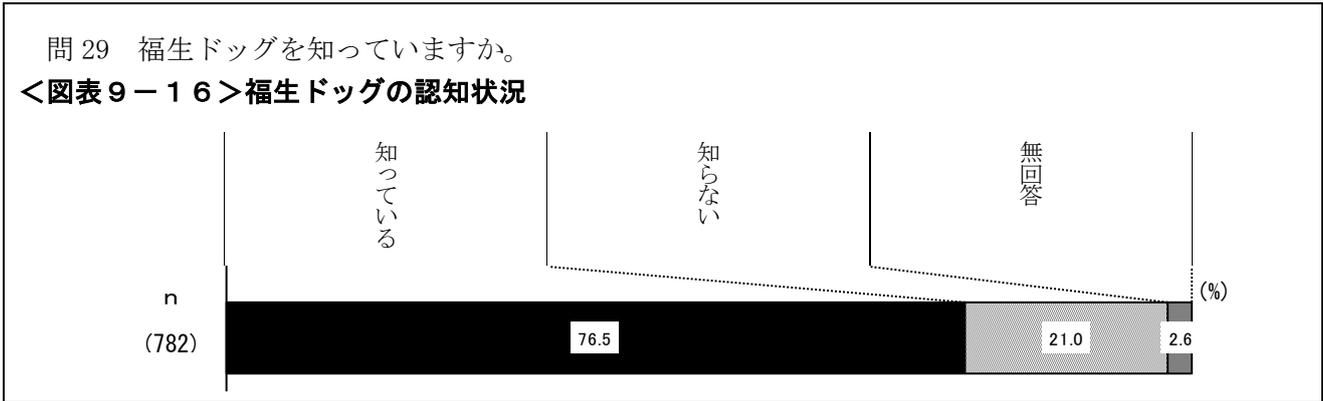
<図表9-15> 「くるみる ふっさ」の利用目的（複数回答）



問28-2で「ある」を選んだ方に、「くるみる ふっさ」の利用目的を尋ねたところ、「名産品の購入」（50.0%）が最も高く、5割となっており、次いで「観光情報の収集（市内）」（37.5%）が3割台半ばを超えている。（図表9-15）

(8) 福生ドッグの認知状況

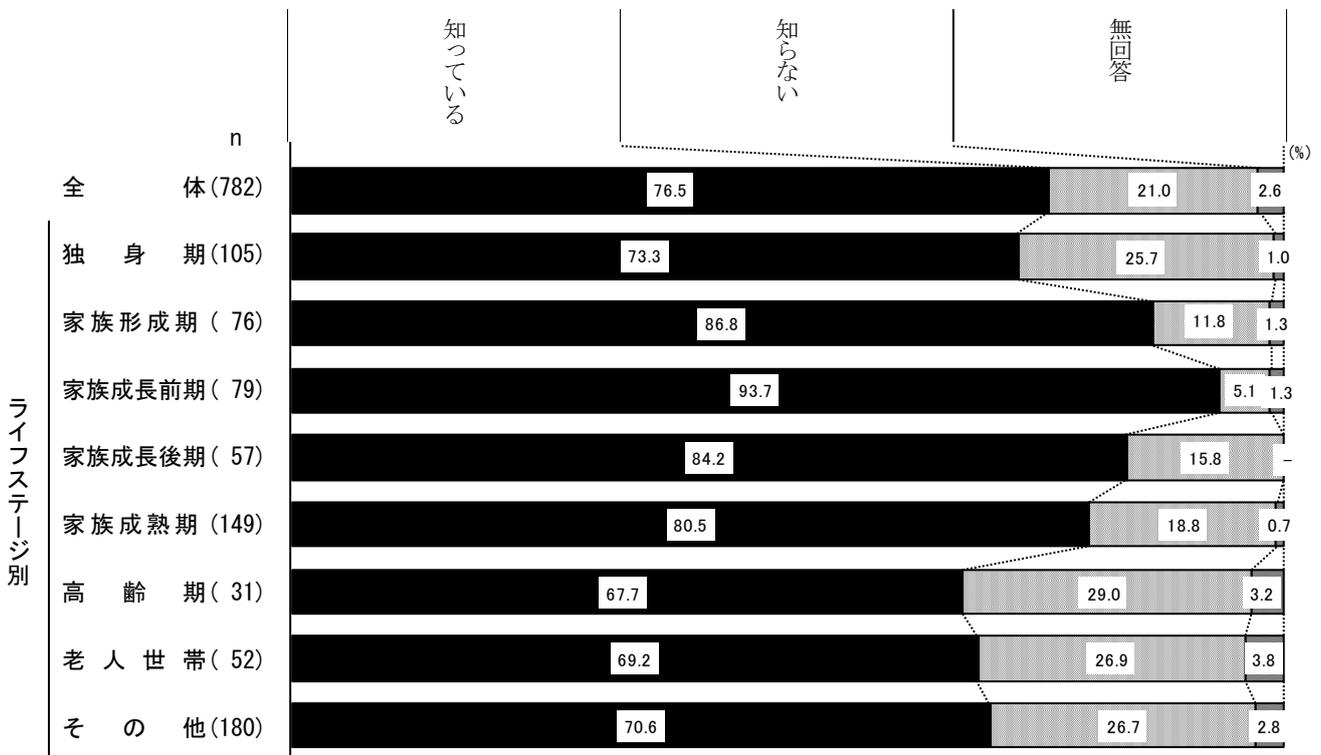
◇「知っている」が7割台半ばを超える



福生ドッグの認知状況を尋ねたところ、「知っている」(76.5%)が7割台半ばを超え、「知らない」(21.0%)は2割強となっている。(図表 9-16)

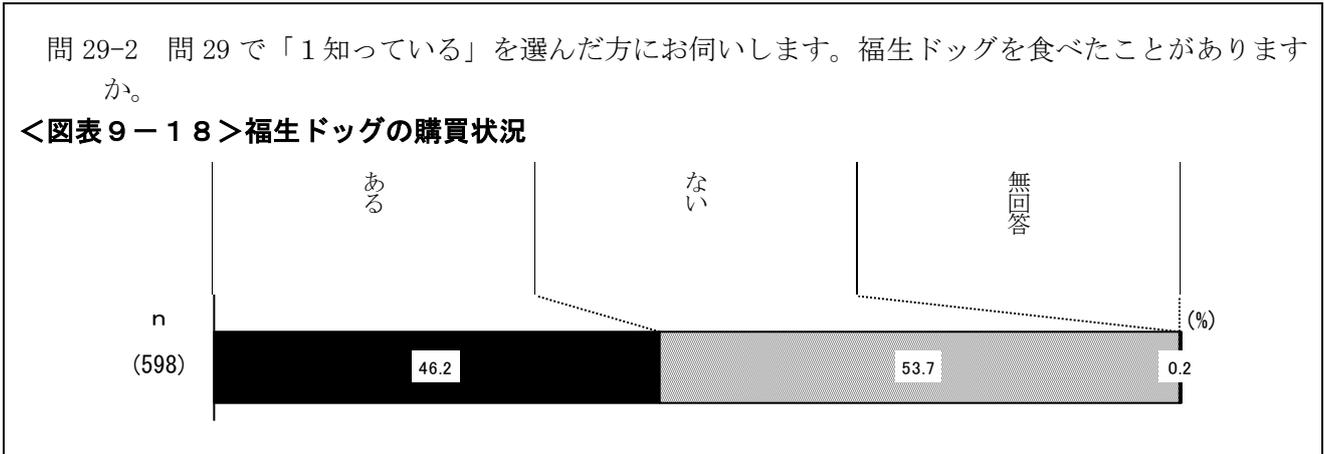
ライフステージ別でみると、「知っている」は家族成長前期(93.7%)で最も高く、家族形成期から家族成熟期までのライフステージで8割以上となっている。(図表 9-17)

<図表 9-17> 福生ドッグの認知状況/ライフステージ別



(9) 福生ドッグの購買状況

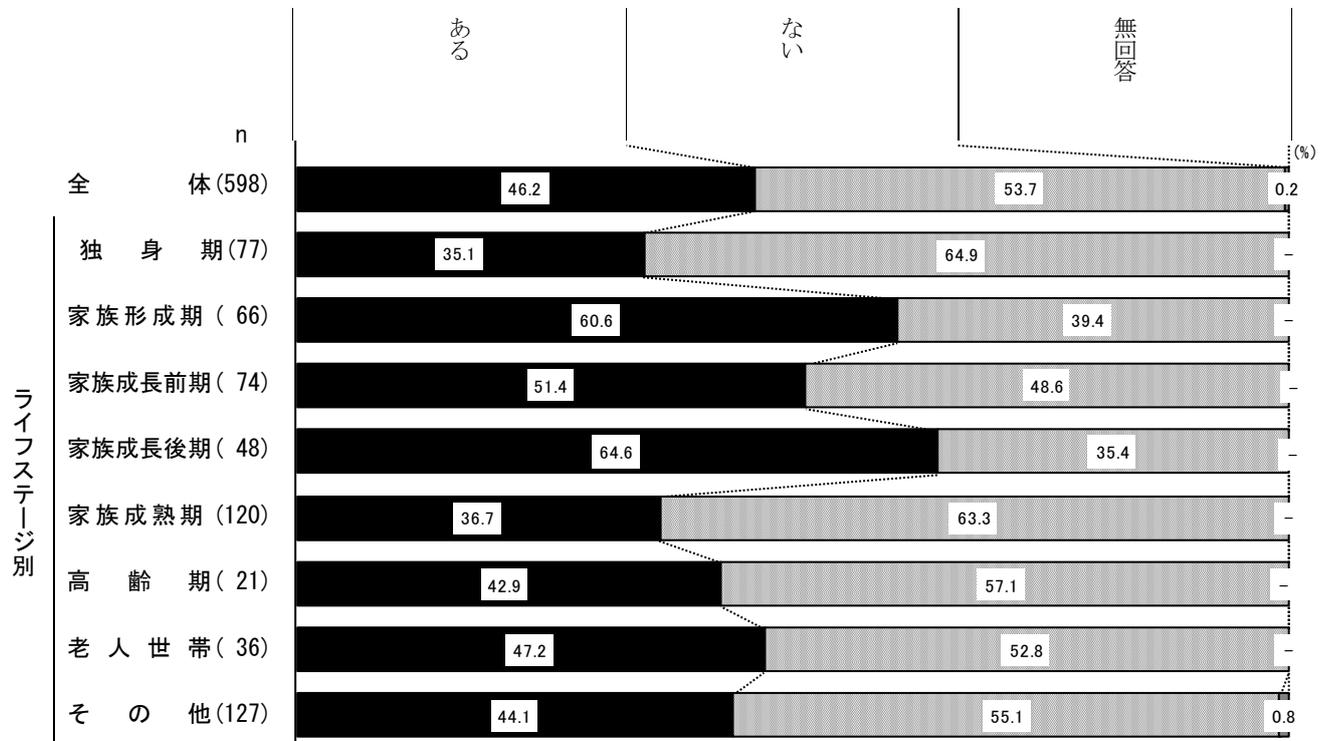
◇「ある」が4割台半ばを超え、「ない」が5割台半ば近く



問29で「知っている」を選んだ方に福生ドッグの購買状況を尋ねたところ、「ある」(46.2%)が4割台半ばを超え、「ない」(53.7%)が5割台半ば近くとなっている。(図表9-18)

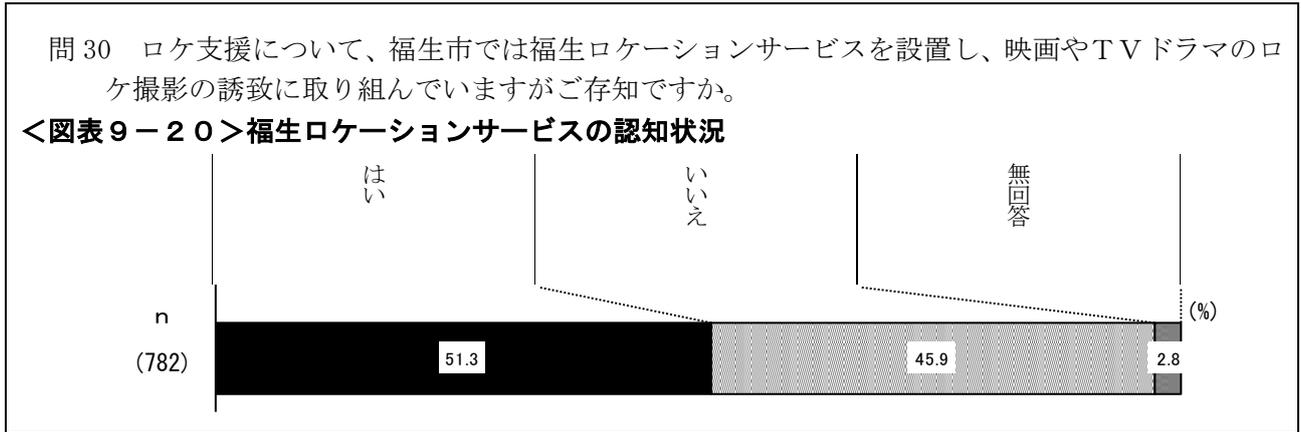
ライフステージ別でみると、「ある」は家族成長後期(64.6%)で最も高く、次いで家族形成期(60.6%)となっており、それぞれ6割以上となっている。「ない」は独身期(64.9%)で最も高く、次いで家族成熟期(63.3%)、高齢期(57.1%)となっている。(図表9-19)

**<図表 9-19> 福生ドッグの購買状況/ライフステージ別**



(10) 福生ロケーションサービスの認知状況

◇「はい」が5割強、「いいえ」が4割台半ば

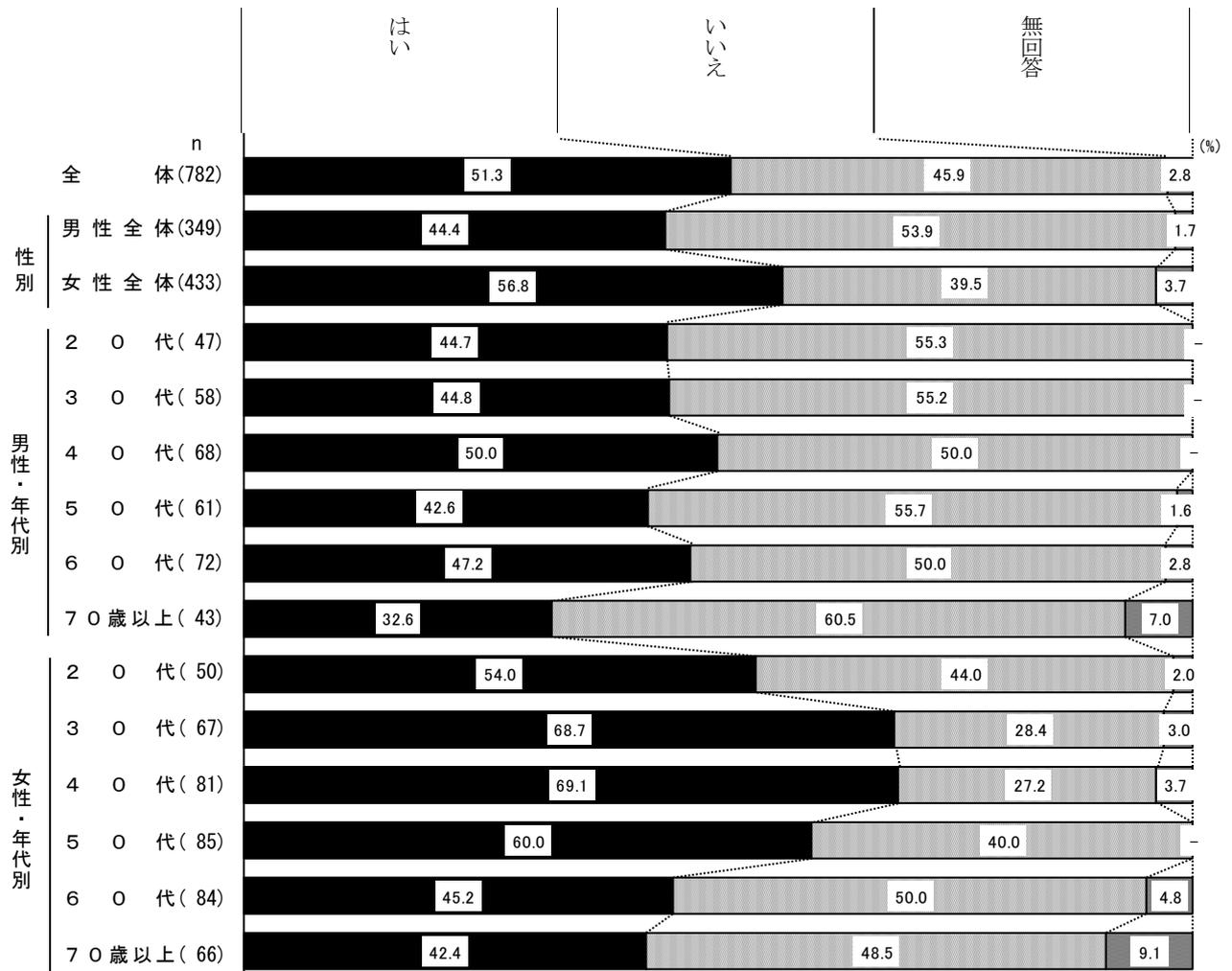


福生ロケーションサービスの認知状況について尋ねたところ、「はい」(51.3%)が5割強、「いいえ」(45.9%)が4割台半ばとなっている。(図表9-20)

性別でみると、「はい」は女性全体(56.8%)が男性全体(44.4%)より12.4ポイント高い。

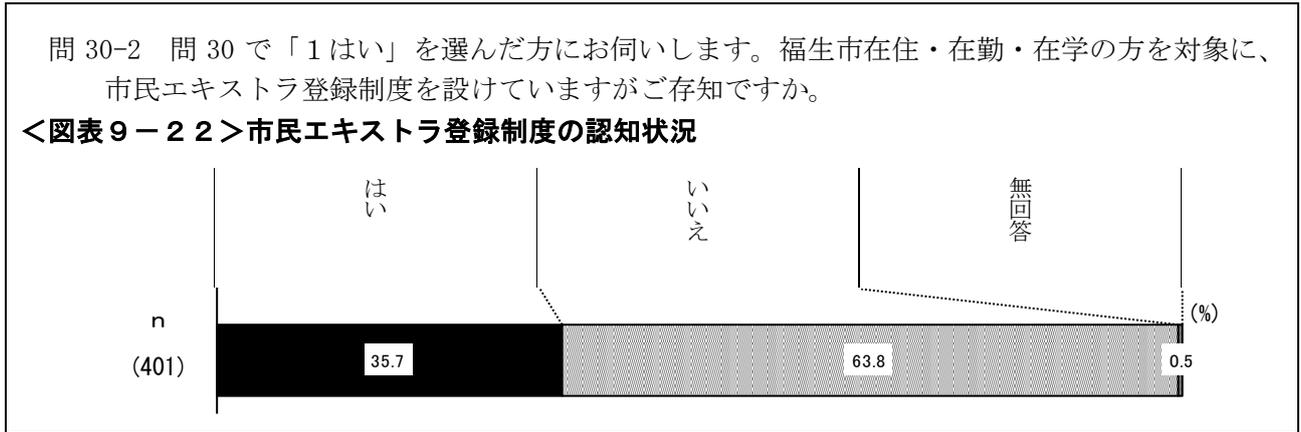
性・年代別でみると、「はい」は女性の40代(69.1%)で最も高く、女性の30代から50代の年代で6割以上となっている。(図表9-21)

**<図表9-21>福生ロケーションサービスの認知状況/性別、性・年代別**



(11) 市民エキストラ登録制度の認知状況

◇「はい」が3割台半ば、「いいえ」が6割台半ば近く



問30で「はい」を選んだ方に市民エキストラ登録制度の認知状況を尋ねたところ、「はい」(35.7%)が3割台半ば、「いいえ」(63.8%)が6割台半ば近くとなっている。(図表9-22)

性別でみると、「はい」は女性全体(39.8%)が男性全体(29.0%)より10.8ポイント高い。

性・年代別でみると、「はい」は女性の60代(47.4%)で最も高く、次いで女性の40代(44.6%)、30代(43.5%)となっている。(図表9-23)

**<図表9-23>市民エキストラ登録制度の認知状況/性別、性・年代別**

